

授業科目名	専門演習（足立）	担当教員名	足立 俊輔			
科目ナンバリング		開講学期	通年	単位数	4単位	配当年次 3年生
授業概要	<p>春学期では、会計の仕組みについて分かりやすく書かれているテキストを輪読して授業を進めていく。秋学期では、実際の企業の貸借対照表や損益計算書の分析ができるように講義を進めていく。簿記の基礎を学習し、その知識が実務でどのように用いられているのかまで理解できるようケースを交えながら学習していく。</p> <p>一年を通じて、「財務分析（企業の健康診断）」ができるようになるようにゼミを進めていく。</p>					
到達目標	<p>簿記・会計の基本的な学習も同時並行で行いながら、一連の「財務分析」ができるようになることを念頭に置いている。</p>					
評価の方法と基準	評価方法	割合(%)	評価基準・その他備考			
	平常点	70	受講態度、レジュメ作成、グループ報告			
	小テスト					
	レポート	30	グループ作業			
	定期試験					
	その他					
事前・事後学習	<p>このゼミは、会計や簿記、特に財務分析に興味のある方におすすめです。 前期に取り扱う書籍：『ビジネス会計検定試験公式テキスト』（最新版） 後期に取り扱う書籍 財務分析に関するビジネス書を春学期末までに選択しておきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> やむを得ない事情で欠席しなければならない場合は、必ず連絡すること。 					
事前受講を推奨する科目	簿記原理					
教科書	書籍名		著者	出版社	出版年	
	『ビジネス会計検定試験公式テキスト』		大阪商工会議所編	中央経済社	最新版	
参考書	書籍名		著者	出版社	出版年	
	『下関市立大学 学びのハンドブック』					
備考	対面ゼミを全回想定しています					

授業の計画

1	ガイダンス	講義の進め方、評価方法について説明します。
2	財務諸表とは	テキスト第1章 財務諸表の利用、会計の基本的プロセス
3	貸借対照表	テキスト第2章 貸借対照表の仕組み、資産
4	貸借対照表	テキスト第2章 負債、純資産
5	損益計算書	テキスト第3章 損益計算書の仕組み、売上総利益、営業利益
6	損益計算書	テキスト第3章 経常利益、税引前当期純利益、当期純利益
7	キャッシュフロー計算書	テキスト第4章 キャッシュの範囲、キャッシュフロー計算書の読み方
8	財務諸表分析	テキスト第5章 財務諸表分析の関係者と対象情報、基本体系
9	財務諸表分析	テキスト第5章 基本分析
10	財務諸表分析	テキスト第5章 成長性分析
11	財務諸表分析	テキスト第5章 安全性分析
12	財務諸表分析	テキスト第5章 キャッシュフロー分析
13	財務諸表分析	テキスト第5章 収益性分析
14	グループ調査報告（予定）	財務分析またはアンケート調査分析を予定
15	前期のまとめ	前期で学習したことをゼミでまとめていきます。
16	後期ゼミ題材のレクチャー	後期で学習する事項の基礎的なことをレクチャーします。
17	財務諸表の体系	財務諸表のつながりや各勘定の内容を確認します。
18	財務分析入門	貸借対照表と損益計算書のチェックポイントの確認
19	財務分析のテクニック	成長性分析
20	財務分析のテクニック	安全性分析
21	財務分析のテクニック	損益分岐点分析
22	財務分析のテクニック	キャッシュフロー分析
23	財務分析のテクニック	生産性分析
24	財務分析のテクニック	収益性分析
25	実際の財務分析	これまで勉強してきた財務分析の復習
26	実際の財務分析	これまで勉強してきた財務分析の復習
27	グループ報告	財務分析の結果をグループで報告する
28	グループ報告	財務分析の結果をグループで報告する
29	グループ報告	財務分析の結果をグループで報告する
30	後期のまとめ	後期で学習したことをゼミでまとめていきます。

授業科目名	専門演習（石井）	担当教員名	石井 良輔
科目ナンバリング		開講学期	通年
		単位数	4単位
		配当年次	3年生

授業概要	ゲーム理論の基本的な知識、レポートの書き方を学ぶ。前半では、卒業論文を書くための基礎知識として、また、「経済学部を卒業した」と胸を張って言えるようゲーム理論を学ぶ。ゲーム理論は、市場理論とともに、ミクロ経済学の一環として教えられることが多い。ミクロ経済学全般は、ゲーム理論に必須ではないものの、理解を深めるのに役立つ。本科目を履修するうえでは、ミクロ経済学を取り扱う全講義科目的（単位を修得するだけでなく）内容を理解していくことが望ましい。また、応用分野の勉強はほどほどほどの人が向いている。経済学の研究は、基礎はもちろん、応用、実証でもモデル（理論）を重視する。理論の理解あってこそ高度なレベルに達する。詳細な事実を知ることは、それ自体には意味があるものの、理論の理解につながらない。意欲ある人は大学院必修レベルのテキストを自分で読めるようになっておこう。 後半では、レポートの書き方に関するレポートを全員で書く。「レポートは楽單」ではない。正しいレポートの書き方を学び、卒業論文に備える。					
到達目標	同時ゲーム・交互ゲームを通して、自らが周囲とも関係を正しく理解し、他者の行動を客観的に分析できる、「ゲーム心」を涵養する。 ・利得行列を用いてナッシュ均衡を求められる ゲームの木を用いてバックワードインダクションで解ける ・交互ゲームを利得行列で表現できる ・交互ゲームの解以外のナッシュ均衡を求められる ・日常生活の場面をゲームに定式化して解き、解釈できる 読者にやさしいレポートを書ける。					
評価の方法と基準	評価方法	割合(%)	評価基準・その他備考			
	平常点	100	30秒スピーチを含むグループワーク、紙芝居作成、紙芝居プレゼンテーション、共著レポートへの貢献などを考慮して総合的に評価する			
	小テスト					
	レポート					
	定期試験					
	その他					
事前・事後学習	文部科学省や大学基準協会の要請に応えるべく、規定回数以上出席し、平均して毎回4時間の授業外学修をせよ。 具体的には、毎回の授業の予習として、2時間以上をかけて教科書の対応部分を通読せよ。重要と思う部分とその理由、新しく知ったこと、質問・コメントをノートに整理しプレゼン素案を作成せよ。 毎回の授業の復習として、2時間以上をかけてその授業で重要と思った点を中心にノートに整理し授業内容を検討せよ。					
事前受講を推奨する科目	経済数学	マクロ経済学				
	ミクロ経済学	その他、（できれば数式を用いた）理論を取り扱う科目				
教科書	書籍名	著者	出版社	出版年		
	『ゲーム理論』	渡辺隆裕	日経文庫	2019		
参考書	書籍名	著者	出版社	出版年		
備考	後半では、「レポートの書き方に関するレポート」を全員共著で作成する。毎回のお題（例えば、「どこまでが盗用でどこからが適切なパラフレーズか」）について、各ゼミ生がレポート書き方指南書（人によって異なる）を読むなどの予習をする。本番のゼミではグループ内で意見調整し、他のグループ向けに発表する。授業後に*すべてのゼミ生が*文章を書く。この短い文章の束をまとめて調整したものが最終レポートとなる。					

授業の計画

		授業の計画
1	イントロダクション	授業進行の概要を知り、30秒スピーチ、グループワーク、紙芝居プレゼンテーションを実践する
2	メールを送ろう	メールの作法については様々な流派があり、どれが正しいとはものの、「これさえ守っておけば怒られは発生しにくい」ルールについて学ぶ
3	利得行列	プレイヤーたちが同時に意思決定をするゲームを用いて、ゲームの3要素である、プレイヤー、戦略、利得について学ぶ
4	支配戦略	「相手が何をプレイしようが自分はこれをしておきさえすればよい」という支配戦略について学ぶ
5	一方のみに支配戦略があるゲーム	二人のうち一方に支配戦略のあるゲームについて学び、一方のゲームの解に対する他方の最適反応が、そのゲームの解であることを学ぶ
6	ナッシュ均衡	支配戦略のないゲームに関しても、「最適反応利得に下線を引く」手法によってゲームの解を求められることを学ぶ
7	同時ゲーム演習	ゲーム理論の思考法に慣れるために、具体的な同時ゲームについてナッシュ均衡を求める訓練を行う
8	均衡選択	複数のナッシュ均衡があるゲームで、実現しやすいナッシュ均衡の性質とその正当化について学ぶ
9	ゲームの木	同時ゲームに手番をつける形式で「先手の行動を観察後に後手が行動を選択する」ゲームについて考え、手番つきゲームをゲームの木で表す
10	交互ゲームの解	想定する状況は違っても、同時ゲームと同様に交互ゲームを解く方法があることがわかる
11	バックワードインダクション	ゲームの木が与えられたときに「後ろから解く」ことで、交互ゲームの解の求め方（バックワードインダクション）を知る
12	交互ゲームを利得行列で表現する	ゲームの木で表されたゲームを利得行列で書き直す手順について学ぶ
13	チキンゲームとフォーカルポイント	複数のナッシュ均衡が存在し、均衡選択では判断できないゲームにおいて、実際にどのナッシュ均衡が選ばれるかについて議論する
14	コミットメント	実際の行動よりも前に、自らの行動を表明することで、自分にとって有利に物事を運べる状況が存在することを知る
15	石井良輔ゼミ出身者紹介	ゼミの先輩とのインタビュー内容を他のゼミ生に向けて報告する
16	インセンティブとゲーム理論	契約を提示する側、提示される側両方の立場になって、最適な契約、受け入れるか拒否するかの意思決定について考える
17	報酬と罰則	できるだけ報酬を低く抑えたい契約提示側と、ボーナスの水準によって努力するか否かを決定する被提示側の問題を考える
18	最後通牒ゲームと実験経済学	最後通牒ゲームを例に、行動経済学での実験が理論と不整合であることを学び、それに対して最先端の研究が何を追究しているかを学ぶ
19	オークション	様々なオークションの形式を知り、それぞれで戦略的に行動するとどうなるかを知る
20	競りとインターネットオークション	身近なインターネットオークションの構造を知り、どう振る舞うのが合理的か考える
21	第二価格オークションと収益等価定理	ミクロ経済学のなかでも特に「シンプルで美しい」と評価されることが多い収益等価定理について学ぶ
22	囚人のジレンマ	高校公民科の教科書でも取り上げられている囚人のジレンマゲームを正しく理解する
23	ポストンアルゴリズム	大半の大学のゼミ選択で用いられるマッチングアルゴリズムについて学ぶ
24	受入留保式アルゴリズム	ポストンアルゴリズムの不備を修正したアルゴリズムについて学び、実践する
25	レポートにおける引用の作法	文献リストの書き方、本文での参照方法について知る
26	レポートの体裁	レポートの書き方について定着している慣行について知る
27	正当な引用	著作権法上認められる正当な引用方法について知る
28	盗用を避ける	「コピペして語句を少々変えるだけ」では研究不正になることを知る
29	適切なパラフレーズ	「自分のことばで書く」ことを実践し、その難しさを知る
30	残りの大学生活で何をするか	「単位をお手軽にそろえて、残った時間は就職活動とアルバイト」以外の大学の楽しみ方について議論する

授業科目名	専門演習（太田）	担当教員名	太田 麻美子			
科目ナンバリング		開講学期	通年	単位数	4単位	配当年次 3年生

授業概要	今日、欧米諸国を中心に教育への投資を経済学的観点から捉える「教育経済学」の研究が注目されている。本専門演習では、春学期に教育経済学の歴史や近年の研究等を学びながら、教育を経済学的観点から捉える必要性について学ぶ。加えて、論文の種類や読み方について学ぶことで、卒業論文を仕上げるための素地となる力を養う。また、秋学期には春学期に学んだことを活かし、論文抄読会を行うことにより、論文検索方法やプレゼンテーション方法を実践的に学ぶ。加えて、実際のデータを扱った統計分析を行うことにより必要な情報を読み取る能力を身に着けることで、卒業論文の研究テーマ及び研究方法をグループ討議や個別指導を通して検討する。					
到達目標	・教育経済学の概要について理解し説明することができる。 ・研究論文の精読と発表を通して論文の読み方やまとめ方を身につけ、発表及び議論を行うことにより研究テーマの設定ができるようになる。					
評価の方法と基準	評価方法	割合(%)	評価基準・その他備考			
	平常点	50	平常点は出席状況、質問や発言内容などを指す。			
	小テスト					
	レポート					
	定期試験					
	その他	50	発表は授業内でのチームまたは個人での発表内容を指す。			
事前・事後学習	教育経済学もしくは教職課程を履修していることが望ましいです。					
事前受講を推奨する科目						
教科書	書籍名	著者	出版社	出版年		
参考書	書籍名	著者	出版社	出版年		
	『SPSSで学ぶ医療系データ解析』	対馬栄輝	東京図表	2007		
	『研究事例で学ぶSPSSとAMOSによる心理・調査データ解析第2版』	小塩真司	東京図表	2005		
備考	参考書一部を授業資料として配布します。 研究に関してイメージを深めるための、ゲストスピーカーを予定しています（日付未定）。					

授業の計画

授業の計画	
1	春学期ガイダンス
2	研究基礎
3	研究基礎
4	教育経済学概論
5	教育経済学概論
6	教育経済学概論
7	教育経済学概論
8	研究とは何か
9	研究論文の種類と構成
10	論文の読み方
11	論文のまとめ方
12	文献検索の方法
13	文献検索（演習）
14	論文紹介
15	春学期のまとめ
16	秋学期ガイダンス
17	研究のはじめ
18	抄読会 文献精読
19	抄読会 発表
20	データの視覚化
21	統計検定の基本
22	統計検定の基本
23	文献検索 (研究テーマに関して)
24	抄読会 文献精読
25	抄読会 発表
26	抄読会 文献精読
27	抄読会 発表
28	個別発表
29	次年度のゼミ活動の準備
30	秋学期のまとめ

授業科目名	専門演習（岸本）	担当教員名	岸本 充弘									
科目ナンバリング		開講学期	通年	単位数	4単位	配当年次	3年生					
授業概要	<p>鯨やフグ等下関を代表する水産物や農産物、観光資源等の地域資源を活かして、地域振興にどのようにつなげることができるのか調査研究を行い、最終的に提言（提案）という形でレポートにまとめる内容の演習を予定しています。</p> <p>春学期・秋学期では、文献調査やレポート作成、現場でのヒアリング（フィールドワーク）等を通じて、調査手法やレポートの作成、プレゼンの基本を身に付けていただきながら、各グループ（政策提案 事業提案 商品開発提案等）ごとにテーマを決め、各種文献調査、フィールドワーク、レポート（提言（提案）書）を作成し、最終的に役所、企業等の方をお招きし、プレゼンを行っていただく予定です。なお、4年生との合同ゼミや、学祭、オープンキャンパス、各種イベント等に参加し、研究成果の発表を随時行います。</p>											
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な文献調査等の先行研究調査ができること ・ 現場でのヒアリング調査（フィールドワーク）等ができること ・ レポート作成（論文に準じた構成や引用等の記載を含む）ができること ・ 基本的なパワーポイントの作成やプレゼンテーションができること 											
評価の方法と基準	評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考									
	平常点	50	出席状況、議論等への参加状況等									
	小テスト											
	レポート											
	定期試験											
	その他	50	レポート、プレゼンの内容等									
事前・事後学習	日頃からテレビ、新聞、インターネット等により様々な情報を集めておいてください。関連がなさそうな事柄から、大きなヒントになり、繋がることもあります。様々なことに興味関心を持ち、分野を問わずチャレンジする精神を養うことが大切です。											
事前受講を推奨する科目												
教科書	書籍名	著者	出版社	出版年								
	『教科書は指定しない』											
参考書	書籍名	著者	出版社	出版年								
	『下関市立大学 学びのハンドブック』											
	『新データで読む地域再生』	日本経済新聞社地域報道センター	日本経済新聞出版	2024								
備考	この授業は、行政機関等での実務経験がある教員が行う授業です。											

授業の計画

		授業の計画
1	オリエンテーション	専門演習の進め方、自己紹介、グループ分け
2	レポートの書き方、プレゼンの仕方等	文献の調査方法、レポートの書き方、プレゼンテーション等の基本について習得する。
3	グループ発表準備・報告	水産物や地域資源を活用した地域振興の事例を文献等により調査し、各グループでレポートを作成、発表するための準備を行う。準備状況の報告。
4	グループ発表準備・報告	水産物や地域資源を活用した地域振興の事例を文献等により調査し、各グループでレポートを作成、発表するための準備を行う。準備状況の報告。
5	グループ発表準備・報告	水産物や地域資源を活用した地域振興の事例を文献等により調査し、各グループでレポートを作成、発表するための準備を行う。準備状況の報告。
6	グループ発表に向けての中間報告	各グループで発表に向けての中間報告を行う。
7	グループ発表	各グループで取りまとめたレポートを発表する。
8	グループ発表	各グループで取りまとめたレポートを発表する。
9	グループ発表	各グループで取りまとめたレポートを発表する。
10	フィールドワークの手法について	フィールドワークを実施するにあたっての基本（事前準備、アポどり、調査票、とりまとめ等）を習得する。
11	フィールドワーク	現場でのフィールドワーク
12	フィールドワーク	現場でのフィールドワーク
13	フィールドワークの報告	実施したフィールドワークの取りまとめを行い、グループで報告する。
14	レポート作成、論文作成等について	レポートや論文作成における構成、引用、出所等に係る記載方法、個人情報の取り扱い等について習得する。
15	前半まとめ	前半（春学期）のまとめ及び補足と、後半（秋学期）に向けての準備（テーマ設定等）
16	後半オリエンテーション	提言（提案）書作成に向けてのオリエンテーション（進め方、グループ分け、テーマ設定等）
17	提言書作成に向けての演習	提言（提案）書作成に向けて各グループでテーマの確定、今後の進め方、スケジュール等を協議し、準備を行う
18	グループ演習（文献等調査）・報告	各グループごとに必要な資料、文献等の調査、収集を行う。状況を報告する。
19	グループ演習（文献等調査）・報告	各グループごとに必要な資料、文献等の調査、収集を行う
20	グループ演習（文献等調査）・報告	各グループごとに必要な資料、文献等の調査、収集を行う
21	グループ演習（フィールドワーク）	各グループごとに必要な聞き取り調査を行う
22	グループ演習（フィールドワーク）	各グループごとに必要な聞き取り調査を行う
23	グループ演習（フィールドワーク）	各グループごとに必要な聞き取り調査を行う
24	グループ演習（中間報告）	各グループごとに、文献調査、フィールドワークの結果を取りまとめ、今後の提言（提案）書作成の方向性について中間報告を行う
25	グループ演習（提言（提案）書作成）	各グループごとに、提言（提案）の作成を行う
26	グループ演習（提言（提案）書作成）	各グループごとに、提言（提案）の作成を行う
27	提言書に係るプレゼン	各グループごとに、提言（提案）のプレゼンを行う
28	提言書に係るプレゼン	各グループごとに、提言（提案）のプレゼンを行う
29	提言書に係るプレゼン	各グループごとに、提言（提案）のプレゼンを行う
30	専門演習 総まとめ	各プレゼンに対する講評と専門演習 に向けてのガイダンス

授業科目名	専門演習（小村）	担当教員名	小村 有紀								
科目ナンバリング		開講学期	通年	単位数	4単位	配当年次					
		3年生									
授業概要	<p>この演習では、社会政策の観点から国や自治体の構造と機能などについて学ぶ。また、全体を通じて卒論の執筆に向けた準備を行う。</p> <p>春学期には、特に以下のことを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会政策に関する論文の輪読 ・社会調査の手法の習得 <p>秋学期には、特に以下のことを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会調査 										
到達目標	社会政策について、根拠をもって自分の考えを述べることが出来るようになることを目指す。										
評価の方法と基準	評価方法	割合(%)	評価基準・その他備考								
	平常点	70	受講態度など								
	小テスト										
	レポート										
	定期試験										
	その他	30	プレゼン資料作成など								
事前・事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の前に、使用する教科書などを読み、ゼミでの議論の準備をすること。また、担当する箇所については報告資料を作成すること。 ・授業の後は、新聞やテレビのニュースなどについて授業で学んだことを結ぶつけて考えること。 ・卒論に向けて各自準備をすること。 										
事前受講を推奨する科目	社会政策										
教科書	書籍名			著者	出版社	出版年					
	『必要に応じて講義内で指示します』										
参考書	書籍名			著者	出版社	出版年					
	『必要に応じて講義内で指示します』										
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・受講生の希望などにより、授業計画を変更することがある。 ・やむを得ない事情で欠席する場合は、事前に必ずメールなどで連絡すること。 										

授業の計画

		授業の計画
1	ガイダンス	講義の進め方などについて説明する。 前期で学習することを説明する。
2	レポート作成、論文の読み方など	レポートの作成方法、プレゼン資料の作成方法などを習得する。
3	レポート作成、論文の読み方など	文献調査の方法や論文の読み方などを習得する。
4	論文輪読	学術雑誌掲載の論文について、担当者がレジュメを作成し、報告する。 報告内容に基づき、皆で議論する。
5	論文輪読	学術雑誌掲載の論文について、担当者がレジュメを作成し、報告する。 報告内容に基づき、皆で議論する。
6	論文輪読	学術雑誌掲載の論文について、担当者がレジュメを作成し、報告する。 報告内容に基づき、皆で議論する。
7	論文輪読	学術雑誌掲載の論文について、担当者がレジュメを作成し、報告する。 報告内容に基づき、皆で議論する。
8	論文輪読	学術雑誌掲載の論文について、担当者がレジュメを作成し、報告する。 報告内容に基づき、皆で議論する。
9	論文輪読	学術雑誌掲載の論文について、担当者がレジュメを作成し、報告する。 報告内容に基づき、皆で議論する。
10	論文輪読	学術雑誌掲載の論文について、担当者がレジュメを作成し、報告する。 報告内容に基づき、皆で議論する。
11	論文輪読	学術雑誌掲載の論文について、担当者がレジュメを作成し、報告する。 報告内容に基づき、皆で議論する。
12	論文輪読	学術雑誌掲載の論文について、担当者がレジュメを作成し、報告する。 報告内容に基づき、皆で議論する。
13	論文輪読	学術雑誌掲載の論文について、担当者がレジュメを作成し、報告する。 報告内容に基づき、皆で議論する。
14	論文輪読	学術雑誌掲載の論文について、担当者がレジュメを作成し、報告する。 報告内容に基づき、皆で議論する。
15	前期のまとめ	前期で学習したことを振り返る。
16	前期の復習と後期ゼミのガイダンス	前期で学習したことを復習する。 後期で学習することを説明する。
17	卒論の準備	前期で学んだことなどから、各自に卒論の予定（テーマややってみたいこと）を報告してもらう。
18	社会調査の教科書輪読	社会調査とは何かについて理解する。
19	社会調査の教科書輪読	社会調査の種類を理解する。
20	社会調査の教科書輪読	質的調査の手法を理解する。
21	社会調査の教科書輪読	量的調査の手法を理解する。
22	フィールドワーク	フィールドワークの事前調査
23	フィールドワーク	フィールドワークの事前調査
24	フィールドワーク	フィールドワークの事前調査
25	フィールドワーク	学外でのフィールドワーク
26	フィールドワーク	学外でのフィールドワーク
27	フィールドワーク	学外でのフィールドワーク
28	フィールドワーク	フィールドワークのまとめ
29	卒論の準備	1年を通じて学んだことなどから、各自に卒論執筆のスケジュールを報告してもらう。
30	後期のまとめ	後期で学習したことを振り返る。

授業科目名	専門演習（小柳）	担当教員名	小柳 真二				
科目ナンバリング		開講学期	通年	単位数	4単位	配当年次	3年生
授業概要	<p>春学期は経済地理学に関する論文（地域の産業、都市、交通など）を中心に、秋学期は受講者自身の関心によって選択した論文について、受講者による報告とディスカッションを行う。地域間の経済格差、産業とイノベーション、地方創生、地域振興といった、地域に関する現代の諸課題やその背景への理解を深めるとともに、論文の探索力や読解力、プレゼンテーション能力を高めていきたい。</p> <p>また卒業論文への準備として、Excelによる表計算や図表作成、地理情報システム（GIS）による地図作成等、データ処理について学ぶ。その実践として、文献講読の資料作成の際には独自の図表作成・分析を加えることとする。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・文献の読み解き、要約ができる ・学術論文の基本的構成を理解し、自分がそれを書くまでの作法を身につける ・議論（質問・主張）する習慣・力を身につける ・ExcelやGISによる作図や分析が効率的にできる 						
評価の方法と基準	評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考				
	平常点	80	プレゼンテーション（40%）、ディスカッションなど演習への取組姿勢（40%）				
	小テスト						
	レポート	20	文献サーベイの成果をまとめたレポート				
	定期試験						
	その他						
事前・事後学習	<p>事前：文献講読の担当者は、文献の内容要約や自分なりの批評、関連する統計データを紹介する資料を作成する。報告者以外は、ディスカッションに参加するために、必ず文献を読んでおく。</p> <p>事後：ExcelやGISによるデータ処理を学んだことを、自身の関心のある事柄で繰り返し実践する。</p>						
事前受講を推奨する科目							
教科書	書籍名	著者		出版社	出版年		
	『地理学・地域経済関連の論文（演習内で指示する）』						
参考書	書籍名	著者		出版社	出版年		
備考	受講者の数や関心、習熟程度により、演習内容を適宜変更する可能性がある。						

授業の計画

1	ガイダンス	ガイダンス、受講者自己紹介、文献講読の担当決めなど
2	文献・資料収集	各種文献・資料の探し方、読み方、まとめ方、参照・引用の作法
3	データの収集と処理	地域に関するデータを扱い、Excelによる効率的な情報処理を学ぶ
4	調査・研究の流れ	調査・研究の設計、実施、アウトプット（論文・報告書・プレゼン）の流れと意識すべき点を学ぶ
5	文献講読	受講者による発表（文献の要約・批評+）とそれを受けたディスカッション
6	文献講読	受講者による発表（文献の要約・批評+）とそれを受けたディスカッション
7	文献講読	受講者による発表（文献の要約・批評+）とそれを受けたディスカッション
8	文献講読	受講者による発表（文献の要約・批評+）とそれを受けたディスカッション
9	文献講読	受講者による発表（文献の要約・批評+）とそれを受けたディスカッション
10	文献講読	受講者による発表（文献の要約・批評+）とそれを受けたディスカッション
11	文献講読	受講者による発表（文献の要約・批評+）とそれを受けたディスカッション
12	データの収集と処理	テーブル設計、BIツールの利用について学ぶ
13	データの収集と処理	発展的内容としてプログラミング言語（Python）による効率的な情報処理を学ぶ
14	データの収集と処理	発展的内容としてプログラミング言語（Python）による効率的な情報処理を学ぶ
15	春学期のまとめ	春学期の要点をまとめる。また夏季休暇中の課題を指示する（受講者自身が卒業論文で研究を行いたいテーマ（仮で構わない）の選定を想定）
16	夏季休暇中の課題に関する報告	受講者による報告（研究テーマの報告と、秋学期において報告を行う文献のリスト提示）
17	夏季休暇中の課題に関する報告	受講者による報告（研究テーマの報告と、秋学期において報告を行う文献のリスト提示）
18	地理情報システム（GIS）	GISの基礎、QGISの基本操作
19	地理情報システム（GIS）	QGISによる地図（主題図）作成
20	地理情報システム（GIS）	QGISによる空間分析
21	文献講読	受講者による発表（文献の要約・批評+）とそれを受けたディスカッション
22	文献講読	受講者による発表（文献の要約・批評+）とそれを受けたディスカッション
23	文献講読	受講者による発表（文献の要約・批評+）とそれを受けたディスカッション
24	文献講読	受講者による発表（文献の要約・批評+）とそれを受けたディスカッション
25	文献講読	受講者による発表（文献の要約・批評+）とそれを受けたディスカッション
26	文献講読	受講者による発表（文献の要約・批評+）とそれを受けたディスカッション
27	文献講読	受講者による発表（文献の要約・批評+）とそれを受けたディスカッション
28	文献サーベイ	各自が関心のある研究分野について、文献サーベイ（既存研究の動向把握）を行う
29	文献サーベイ	各自が関心のある研究分野について、文献サーベイ（既存研究の動向把握）を行う
30	全体のまとめ	春学期・秋学期を通じた要点をまとめる。春期休暇中の課題を指示する

授業科目名	専門演習（佐藤[隆]）	担当教員名	佐藤 隆			
科目ナンバリング		開講学期	通年	単位数	4単位	配当年次
授業概要		<p>行動経済学とは、それまでの経済学（伝統的経済学）のように最初から「合理性」を仮定するのではなく、人間の心理や行動を観察を通してその特徴を明らかにし、その上に経済学を再構築しようとする学問である。2002年にダニエル・カーネマンが、2017年にはリチャード・セイラーが、それぞれ行動経済学に対する貢献によってノーベル経済学賞を受賞して以来、関心が非常に高まっている。</p> <p>本演習では、行動経済学を「実験」を通して学習することを目的とする。また演習の後半では、実社会において行動経済学がどのように利用されているかについても学ぶ。</p> <p>また、共同自主研究として各ゼミ生に関心のある経済・社会問題（社会課題）について調べて、研究発表・討論を行う。</p>				
到達目標		<p>ゼミ生同士の間で白熱した討論ができるような力を身につけることを目標とする。</p> <p>そのためにはまず、報告者は担当分をまとめ、適切なレジュメを作成し、しっかりととした報告が出来るようにする。</p> <p>報告者以外のゼミ生も、各章ごとにレポートをまとめ要点を把握し、十分な予習をやってきてもらう。</p> <p>ゼミ生同士の間で質疑応答を行う。</p>				
評価の方法と基準	評価方法	割合(%)	評価基準・その他備考			
	平常点	80				
	小テスト					
	レポート	20				
	定期試験					
	その他					
事前・事後学習	事前学習としては、レポーター以外のゼミ参加者もテキストをきちんと読んで、ゼミでの議論に備えること。事後学習としては、関連する書籍や文献を読んでさらに理解を深めること。					
事前受講を推奨する科目	ミクロ経済学・					
	応用ミクロ経済学					
教科書	書籍名		著者	出版社	出版年	
	『行動経済学入門』		筒井義郎他	東洋経済新報社	2017年	
	『行動経済学（新版）』		大垣昌夫・田中沙織	有斐閣	2018年	
	『行動経済学（ケースメソッドMBA）』		岩澤誠一郎	ディスカバー	2020年	
参考書	書籍名		著者	出版社	出版年	
	『行動経済学入門』		リチャード・セイラ ー	ダイヤモンド社	2007年	
	『行動経済学の逆襲』		リチャード・セイラ ー	早川書房	2016年	
	『行動経済学』		友野典男	光文社新書	2006年	
備考	実際に何を行うかはゼミの参加者と協議して決めることがある。					

授業の計画

1	演習の概要説明	自己紹介
2	行動経済学とは？	テキスト全体の概要の説明 各章の報告者の割振りの決定
3	行動経済学とはどのようなものか	ホモエコノミカス：伝統的経済学の前提 人は合理的か？
4	限定合理性(1)	経済的な決定とヒューリスティクス 代表制、利用可能性
5	限定合理性(2)	アンカーリング、フレーミング効果
6	時間選好(1)	異時点間選択 時間割引率の測定方法
7	時間選好(2)	先延ばしと後悔のメカニズム 時間割引率のアノマリー
8	リスク選好とプロスペクト理論(1)	期待効用仮説 アレのパラドックス 確実性効果 小さな確率の過大評価
9	リスク選好とプロスペクト理論(2)	プロスペクト理論とその評価 参照点、価値関数、確率加重関数
10	社会的選好(1)	独裁者ゲーム実験 最後通牒ゲーム実験
11	社会的選好(2)	信頼ゲームと互酬性 違法副業ゲームと互酬性
12	社会的選好(3)	公共財供給実験と社会的ジレンマ 文化と社会的選好
13	お金に関する経済心理(1)	お金の経済的意義 メンタルアカウンティング
14	お金に関する経済心理(2)	サンクコスト 保有効果 機会費用
15	文化とアイデンティティ	文化経済学とは 文化経済学と実験 規範とアイデンティティ経済学
16	幸福の経済学	幸福の経済学の目指すもの 幸福のパラドックス
17	神経経済学とは何か？(1)	「報酬」に基づく意思決定 脳の構造と働き
18	神経経済学とは何か？(2)	効用関数の脳内表現
19	神経経済学とは何か？(3)	実験で時間選好を測る 時間選好に関わる脳機構
20	神経経済学とは何か？(4)	学習理論と神経経済学の実験 条件付けと学習理論 強化学習理論
21	実世界における行動経済学－ナッジ－	ナッジ デフォルトの力 コミットメントの力
22	ナッジの拡張	ナッジの介入の費用対効果
23	行動ファイナンス 効率的市場仮説に抗う	現代の金融市场と効率的市場仮説 市場に勝つことはできない 株式市場は過剰反応を起こす
24	効率的市場仮説に抗う（2）	勝ち組の方が負け組よりリスクが高い 価格は正しくない
25	共同自主研究（1）	各グループによる経済・社会問題に関する研究報告・討論
26	共同自主研究（2）	各グループによる経済・社会問題に関する研究報告・討論
27	共同自主研究（3）	各グループによる経済・社会問題に関する研究報告・討論
28	共同自主研究（4）	各グループによる経済・社会問題に関する研究報告・討論
29	共同自主研究（5）	各グループによる経済・社会問題に関する研究報告・討論
30	全体のまとめ	全体のまとめ

授業科目名	専門演習（佐藤[佑]）	担当教員名	佐藤 佑一
科目ナンバリング		開講学期	通年
		単位数	4単位
		配当年次	3年生

授業概要	<p>本演習では、基本的な理論経済学（マクロ経済学・ミクロ経済学）および環境経済学の知識を身に着けてもらうと同時に、環境経済学や理論経済学を用いて現状の様々な問題を考察して提言できる能力を、グループワークやプレゼンテーション、レポート作成を通して身に着けてもらいたいと思います。3年次にそれらの知識を得ると共に、次年度の論文作成への道筋とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 前期は、経済学の本を2冊取り上げ、各回において各章をグループワーク（メイン班）でプレゼンをして頂き、ゼミ全体で模擬討論をしつつ基礎知識の復習を行います。理論経済学と環境経済学の簡単な本です。同時に、メイン班とは異なるサブ班を構成して、サブテーマの本（環境系、日本経済系、観光系など）を決めてもらい、各班で読んでもらいます。 ○ 後期は実際に環境問題や日本経済等に関する諸問題を取り上げて、前期とは違う班で論文風レポートを作成してもらいます ○ 受講者との話し合いに応じて、合宿や現地調査、外部のプレゼン（論文）コンテスト参加などの方針を考えたいと思います ○ 					
到達目標	<p>基本的な環境経済学や理論経済学（マクロ経済学・ミクロ経済学）の知識を習得する。 グループワーク・討論を通じて、他者とのコミュニケーション能力を醸成すると共に、習得した知識を実際に使用できるようになります。 プレゼンテーション・討論・論文風レポート作成を通じて、課題分析能力・調査能力・発表能力・議論能力の向上を図る。 現地調査や諸活動を通して涉外力を付ける 今後の論文作成につながる土台を作る。</p>					
評価の方法と基準	評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考			
	平常点	85	毎回冒頭から出席することとグループワークを行うかどうかを基準とします。特に毎回の出席を最重視します。			
	小テスト					
	レポート	15	ゼミ内での発言や相互での助け合いを積極的に行うかどうかを基準とします			
	定期試験					
	その他					
事前・事後学習	<p>事前学習： 前期は、担当する箇所をグループでスライドにまとめてきて、毎週輪番で発表してもらいます。メイン班とサブ班を構成します。後期は、各グループで設定した作成レポートについて、班ごとで輪番発表を行うための準備をしてもらいます（資料・討論）。</p> <p>事後学習 前後期とも、ゼミでもらった意見を元に、次のプレゼン・討論・（後期は加えてレポート作成）の準備を行います。絶えずコミュニケーションを図ります。</p>					
事前受講を推奨する科目	<p>特に必要としません。興味があれば、各学科とも環境経済学（経済学科配当科目）の受講をしてみてください。</p>					
教科書	書籍名		著者	出版社		
	『サクッとわかる ビジネス教養 経済学』		井堀利宏	新星出版社		
	『環境経済学をつかむ（第5版）』		栗山浩一・馬奈木俊介	有斐閣		
				2024		
参考書	書籍名		著者	出版社		
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・本演習は3期目です。積極的に外に出していくことと、積極的に受講者同士でのコミュニケーションを楽しくかつ真摯に図り、共に活動する方をお待ちしています。 ・受講者との対話に応じて、前例以外に柔軟に新たな様々な活動の導入を検討します。 ・環境経済学・理論経済学を授業で取り上げますが、後期の班発表はそれら以外の経済政策等でもOKです。班は全て違うメンバーでの構成は自由です。 ・先輩方との交流も行います。 					

授業の計画

1	オリエンテーション	自己紹介を行う。ゼミの方針を共有した上で、メインテーマとサブテーマについて、内容と輪番を振り分ける、授業の進め方と年間の段取りを決める。
2	メイン輪読テーマとサブテーマ発表・討論	前期に指定したテキストの章を振り分けて、メインテーマ班、サブ班の担当はプレゼンを準備してきてもらう。発表者以外は討論準備を行う。
3	メイン輪読テーマとサブテーマ発表・討論	前期に指定したテキストの章を振り分けて、メインテーマ班、サブ班の担当はプレゼンを準備してきてもらう。発表者以外は討論準備を行う。
4	メイン輪読テーマとサブテーマ発表・討論	前期に指定したテキストの章を振り分けて、メインテーマ班、サブ班の担当はプレゼンを準備してきてもらう。発表者以外は討論準備を行う。
5	メイン輪読テーマとサブテーマ発表・討論	前期に指定したテキストの章を振り分けて、メインテーマ班、サブ班の担当はプレゼンを準備してきてもらう。発表者以外は討論準備を行う。
6	メイン輪読テーマとサブテーマ発表・討論	各班とも4班ずつ構成予定であり、以降は第14回まで輪番で行う。同時に、班員以外の交流を図る方法や、ゼミの行動指針と内容について確認する。
7	メイン輪読テーマとサブテーマ発表・討論	引き続き輪番でメインテーマとサブテーマの輪番発表を行う。第6回で確認したゼミ方針内容を今一度振り返り、新たな挑戦について考える。
8	メイン輪読テーマとサブテーマ発表・討論	引き続き輪番でメインテーマとサブテーマの輪番発表を行う。加えて、第7回をもとに、今後の活動の方針と予定を考え、話し合いアイデアをまとめる。
9	メイン輪読テーマとサブテーマ発表・討論	引き続き輪番でメインテーマとサブテーマの輪番発表を行う。第8回をもとに、具体化したアイデアを行動計画に落として、実行可能性を検討する。
10	メイン輪読テーマとサブテーマ発表・討論	引き続き輪番でメインテーマとサブテーマの輪番発表を行う。第9回をもとに、検討した内容がどのように達成できるかを引き続き検討する。
11	メイン輪読テーマとサブテーマ発表・討論	引き続き輪番でメインテーマとサブテーマの輪番発表を行う。第10回をもとに、実際に夏休み以降に何ができるかについてのさらなる検討に入る。
12	メイン輪読テーマとサブテーマ発表・討論	引き続き輪番でメインテーマとサブテーマの輪番発表を行う。第11回をもとに、身に着けるべき知識や段取りを受講者と教員で考える。
13	メイン輪読テーマとサブテーマ発表・討論	引き続き輪番でメインテーマとサブテーマの輪番発表を行う。第12回をもとに、自身の予定も考慮しつつ、夏休みの行動計画の検討に入る。
14	メイン輪読テーマとサブテーマ発表・討論	引き続き輪番でメインテーマとサブテーマの輪番発表を行う。第13回をもとに、第15回目の準備を行う話し合いを実施する。
15	夏休みの過ごし方と後期班の編成・話し合い	夏休みから後期にかけて何をするか、新たな班を正式に構成し、班員同士話し合いをして計画を作成する。計画に応じて、すべきことを逐次決定する。
16	後期の進め方について各班話し合いの実施	夏休みまでの進捗具合を見て、後期の班発表の方法、班ごとでやる調べ方の段取り、ゼミ全体としての運営体制などを検討する。班内でも話す時間を作る。
17	レポート作成班報告・討論・打合せ等	中間報告として、数班結成したうち各回ごとに1~2班を後期は紙ベースで発表報告を聞き討論する。発表班以外は進捗を伝える。班内での打合せも行う。
18	レポート作成班報告・討論・打合せ等	発表班の報告と各班の進捗報告および各班ごとの打合せ実施。状況に応じて、どの内容をどの時期にどれだけやるかを教員と相談しつつ打合せを行う。
19	レポート作成班報告・討論・打合せ等	発表班の報告と各班の進捗報告および各班ごとの打合せ実施。引き続き打合せと共に、先輩との交流や、諸活動の実施の有無についても話し合いを行う。
20	レポート作成班報告・討論・打合せ等	発表班の報告と各班の進捗報告および各班ごとの打合せ実施。今後の進め方、学習スキル習得の計画を調整する。諸活動の時期の決定も行う。
21	レポート作成班報告・討論・打合せ等	発表班の報告と各班の進捗報告および各班ごとの打合せ実施。実際にリサーチクエスチョンや分析手法、分析対象を絞り込む方針。
22	レポート作成班報告・討論・打合せ等	発表班の報告と各班の進捗報告および各班ごとの打合せ実施。第21回を元に、各班員の割り振りを確認して、どのような方針を取るか確認。
23	レポート作成班報告・討論・打合せ等	発表班の報告と各班の進捗報告および各班ごとの打合せ実施。引き続き、これまでの活動を続ける。
24	レポート作成班報告・討論・打合せ等	発表班の報告と各班の進捗報告および各班ごとの打合せ実施。中間報告に向けた準備を各班で行う。
25	中間報告・討論等	後期班の中間報告を2班ずつ2週にわたって行う。プレゼンスライドを作成してきてもらう。発表を元に討論・打合せを進めると共に、今後の活動を再考。
26	中間報告・討論等	第25回と同様の活動を行う。全体の発表を元に、12月から最終週に向けてやるべきこと、まだ調べられてないことなどを考える。
27	レポート作成班報告・討論・打合せ等	発表班の報告と各班の進捗報告および各班ごとの打合せ実施。終盤に向けたレポート執筆状況の確認を班ごとに行う。
28	レポート作成班報告・討論・打合せ等	発表班の報告と各班の進捗報告および各班ごとの打合せ実施。終盤に向けたレポート執筆状況の確認を班ごとに行う。
29	各班最終報告	2週にわたって2班ごとに最終報告を紙ベースで行ってもらう。得たことは何かについてまとめを行つ。
30	各班最終報告と後期のまとめ	残りの班の報告、後期のまとめを行う、加えて4年生に進学するにあたって、個別論文作成への指南実施を行つたり、就職活動への心構えなどを説明する。

授業科目名	専門演習（猿渡）	担当教員名	猿渡 剛			
科目ナンバリング		開講学期	通年	単位数	4単位	配当年次 3年生

授業概要	<p>就職活動を進める過程で、目標達成に向けて P D C A サイクルを回す必要があります。志を高く持ち、自らに高い目標を課して学生生活を送った学生は、会社に入っても目標を高く設定し、その目標を達成するために物事を自分の頭で考えて行動するとのみなされます。高い目標の設定や思考・実行をしてきた証拠となるのが「自己プロジェクト」であり、実際に自分で P D C A サイクルを回さなければ説得力のある説明ができないというわけです。</p> <p>このゼミでは国際経済（東アジア経済や経済統合など）の知識を踏まえつつ「自己プロジェクト」に着手してもらい、その進捗状況を皆の前で報告してもらいます。また、P D C A サイクルを回していくなかで自身が培った、獲得した他の学生との差別化要因について、やはり皆に報告することになります。</p> <p>上述の報告以外にも、面接の際の評価基準やグループ・ディスカッションの技術、問題解決の手法について文献を参照しながら学習していきます。</p>					
到達目標	<p>次の 3 点が出来ることを目指します。</p> <p>先入観にとらわれずにキャリア形成に向けて自分が取り組むべき課題を発見することができます。</p> <p>社会の一員として地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、国際経済（東アジア経済や経済統合など）の知識や多種多様な見識を学び続ける。</p> <p>地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができます。</p>					
評価の方法と基準	評価方法	割合(%)	評価基準・その他備考			
	平常点	70	発言やプレゼンテーションを評価基準とします。			
	小テスト					
	レポート	30	借り物の言葉ではなく自分の言葉で表現できることを評価基準とします。			
	定期試験					
	その他					
事前・事後学習	プレゼンテーションに臨むにあたっては入念な準備を求めます。					
事前受講を推奨する科目						
教科書	書籍名	著者	出版社	出版年		
	『教科書は使用しません』					
参考書	書籍名	著者	出版社	出版年		
	『問題解決』	高田貴久・岩澤智之	英治出版	2014		
	『世界最高水準の採用セオリー』	深堀一雄	ごきげんビジネス出版	2020		
備考	<p>2026年3月14日(土)、15日(日)に予定されている学会の前日準備や当日の運営を積極的に手伝ってくださる方のご応募をお待ちしております。アルバイト代は支給します。</p> <p>(参考URL) https://jafee.org/shimonoseki_2025/</p>					

授業の計画

1	イントロダクション	授業内容や発表の仕方などについての説明
2	自己紹介	学生による発表、学生・教員のディスカッション
3	就職情報サイトの検討・比較	学生による発表、学生・教員のディスカッション
4	就職情報サイト・利点と注意点（1）	学生による発表、学生・教員のディスカッション
5	就職情報サイト・利点と注意点（2）	学生による発表、学生・教員のディスカッション
6	ピラミッドストラクチャーの意識	教員による発表、学生・教員のディスカッション
7	自己分析を行う理由	教員による発表、学生・教員のディスカッション
8	インターンシップに参加する意義	教員による発表、学生・教員のディスカッション
9	目標の設定・企業の評価基準	教員による発表、学生・教員のディスカッション
10	面接のイメージをつかむ	教員による発表、学生・教員のディスカッション
11	創造・課題解決行動の具体例	教員による発表、学生・教員のディスカッション
12	「学生時代に力を入れたこと」の準備	教員による発表、学生・教員のディスカッション
13	採用基準・面接質問・評価の仕方（1）	学生による発表、学生・教員のディスカッション
14	採用基準・面接質問・評価の仕方（2）	学生による発表、学生・教員のディスカッション
15	前期のまとめ	前期で学習したことを振り返ります。
16	夏休みの宿題の振り返り	教員による発表、学生・教員のディスカッション
17	表現に気をつける	教員による発表、学生・教員のディスカッション
18	グループディスカッションの基本	教員による発表、学生・教員のディスカッション
19	グループディスカッションの作法（1）	教員による発表、学生・教員のディスカッション
20	グループディスカッションの作法（2）	教員による発表、学生・教員のディスカッション
21	グループディスカッションの作法（3）	教員による発表、学生・教員のディスカッション
22	グループディスカッションの作法（4）	教員による発表、学生・教員のディスカッション
23	グループディスカッションの作法（5）	教員による発表、学生・教員のディスカッション
24	学外での探究活動（1）	学生・教員のディスカッション
25	学外での探究活動（2）	学生・教員のディスカッション
26	「問題解決」の学習（1）	学生による発表、学生・教員のディスカッション
27	「問題解決」の学習（2）	学生による発表、学生・教員のディスカッション
28	「問題解決」の学習（3）	学生による発表、学生・教員のディスカッション
29	「問題解決」の学習（4）	学生による発表、学生・教員のディスカッション
30	後期のまとめ	後期で学習したことを振り返ります。

授業科目名	専門演習（嶋田）	担当教員名	嶋田 崇治				
科目ナンバリング		開講学期	通年	単位数	4単位	配当年次	3年生
授業概要	本専門演習では、主にプレゼンと課題（「問い合わせ」）発見の能力を高めることを目的に活動を進めていく。春学期は、共通のテーマ・課題を自分で設定し、グループに分かれて、プレゼン形式のコンペを行う（総当たり形式を予定）。秋学期は、その成果と反省を踏まえて、専門演習IIへと繋がる個人研究の選定と報告を行うことが中心課題となる。四年生の卒論報告を聴く機会などを設け、各々の研究テーマを決め、個別報告に結びつける。						
到達目標	到達目標は、学術・就職活動など様々な局面で役に立つプレゼン能力を身につけること、その作業の過程で、興味をもてる研究テーマや「問い合わせ」を発見すること、関連する複数の先行研究を整理する能力を身につけることとする。						
評価の方法と基準	評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考				
	平常点	20	ゼミへの貢献度				
	小テスト						
	レポート	30	研究テーマ・「問い合わせ」の設定、先行研究の整理				
	定期試験						
	その他	50	パワポによるプレゼンと資料作成、コンペ、最終面談				
事前・事後学習							
事前受講を推奨する科目	財政学I（ただし、履修していることが専門演習参加の必須条件ではない）						
	財政学II（ただし、履修していることが専門演習参加の必須条件ではない）						
教科書	書籍名		著者	出版社	出版年		
	『必要に応じて講義内で指示する』						
参考書	書籍名		著者	出版社	出版年		
	『下関市立大学 学びのハンドブック』						
備考	スケジュールや教材は、社会状況や学生の人数等を考慮しながら、適宜変更することがある。						

授業の計画

1	ガイダンス	ガイダンス
2	準備	アイスブレイク
3	準備	アイスブレイク
4	準備	コンペの説明、グループ形成に関する意思確認
5	準備	エクセル操作
6	準備	エクセル操作
7	準備	パワポ操作
8	コンペ	コンペ
9	コンペ	コンペ
10	コンペ	コンペ
11	コンペ	コンペ
12	コンペ	コンペ
13	コンペ	コンペ
14	コンペ決勝	勝ち点の高い上位2グループによるコンペ決勝
15	小括	まとめ
16	秋学期準備	報告グループ作り、役割決め、秋学期の形式の説明
17	4年生による模範報告	4年生の卒論報告（4年生の就職活動の状況によってはスケジュール変更の可能性あり）
18	4年生による模範報告	4年生の卒論報告（4年生の就職活動の状況によってはスケジュール変更の可能性あり）
19	4年生による模範報告	4年生の卒論報告（4年生の就職活動の状況によってはスケジュール変更の可能性あり）
20	リサーチクエッショング報告	今後研究するテーマと問い合わせについて報告
21	リサーチクエッショング報告	今後研究するテーマと問い合わせについて報告
22	リサーチクエッショング報告	今後研究するテーマと問い合わせについて報告
23	リサーチクエッショング報告	今後研究するテーマと問い合わせについて報告
24	議論	リサーチクエッショング報告について振り返り、ディスカッション
25	研究報告	リサーチクエッショング報告での反省を踏まえた研究報告
26	研究報告	リサーチクエッショング報告での反省を踏まえた研究報告
27	研究報告	リサーチクエッショング報告での反省を踏まえた研究報告
28	面談	最終面談シートに基づく面談
29	面談	最終面談シートに基づく面談
30	面談	最終面談シートに基づく面談

授業科目名	専門演習（趙）	担当教員名	趙 彩尹			
科目ナンバリング		開講学期	通年	単位数	4単位	配当年次 3年生
授業概要	<p>本専門演習では、春学期には研究基礎として、レポートの作成方法及びプレゼンテーションの作成と発表方法、加えて、論文の種類や読み方について学ぶことで、卒業論文を仕上げるための素地となる力を養う。</p> <p>また、秋学期には春学期に学んだことを活かし、論文抄読会を行うことにより、論文検索方法やプレゼンテーション方法を実践的に学ぶ。さらに、実際のデータを扱った統計分析を行うことにより必要な情報を読み取る能力を身に着けることで、卒業論文の研究テーマ及び研究方法をグループ討論や個別指導を通して検討する。</p>					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートとプレゼンテーションの作成方法及び発表方法について理解し説明することができる。 ・研究論文の精読と発表を通して論文の読み方やまとめ方を身につけ、発表及び議論を行うことにより研究テーマの設定ができるようになる。 					
評価の方法と基準	評価方法	割合(%)	評価基準・その他備考			
	平常点	60	平常点は出席状況、質問や発言内容、ディスカッションなどを指す。			
	小テスト					
	レポート					
	定期試験					
	その他	40	発表は授業内でのチームまたは個人での発表内容を指す。			
事前・事後学習	やむを得ない事情で欠席しなければならない場合は、必ず連絡すること。					
事前受講を推奨する科目						
教科書	書籍名		著者	出版社	出版年	
参考書	書籍名		著者	出版社	出版年	
	『SPSSで学ぶ医療系データ解析』		対馬栄輝	東京図表	2007	
	『研究事例で学ぶSPSSとAMOSによる心理・調査データ解析第2版』		小塩真司	東京図表	2005	
備考	参考書一部を授業資料として配布する。					

授業の計画

授業の計画	
1 春学期ガイダンス	自己紹介やスケジュール確認等を含めたガイダンスを行う
2 研究基礎	いくつかの作成例を取り上げながらより効果的なレポート作成方法について学ぶ
3 研究基礎	いくつかの作成例を取り上げながらより効果的なレポート作成方法について学ぶ
4 研究基礎	いくつかの作成例を取り上げながらより効果的なレポート作成方法について学ぶ
5 研究基礎	プレゼンテーションの作成のための基本的な方法と発表方法について学ぶ
6 研究基礎	プレゼンテーションの作成のための基本的な方法と発表方法について学ぶ
7 研究基礎	プレゼンテーションの作成のための基本的な方法と発表方法について学ぶ
8 研究とは何か	研究の社会的意義及び研究の目的について学ぶ
9 研究論文の種類と構成	論文の種類、研究デザイン、論文の構成の仕方、エビデンスレベルなど基本的な内容について学ぶ
10 論文の読み方	論文の基本構造と論文を読む際のコツを捉える
11 論文のまとめ方	読み方に基づいた論文のまとめ方について学ぶ
12 文献検索の方法	文献検索サイトの紹介と使用方法について学ぶ
13 文献検索（演習）	文献検索サイトを使用した研究論文の検索演習を行う
14 論文紹介	検索した論文の発表を行う
15 春学期のまとめ	春学期に学んだ内容を振り返る
16 秋学期ガイダンス	秋学期に行う内容の説明
17 研究のはじめ	研究論文を読む必要性について、春学期に学んだことを中心に復習を行う
18 抄読会 文献精読	教員が指定した論文を熟読し、要約する
19 抄読会 発表	要約した論文を、パワーポイントやワード等を活用してまとめ、発表する
20 データの視覚化	データを図表やグラフを表現、情報を視覚化するプレゼンのコツを学ぶ
21 統計検定の基本	統計に関する基礎知識の習得、データの入力仕方について学ぶ。
22 統計検定の基本	データの読み取り方を学ぶ。具体的には、分析した数値をもとに、母集団の特徴を捉えたり、分析結果を文章としてまとめる。
23 文献検索 (研究テーマに関して)	研究テーマを設定し、文献検索を行う
24 抄読会 文献精読	論文を検索し、要約する論文を決定・熟読する
25 抄読会 発表	要約した論文について、パワーポイントを活用してまとめ、発表する
26 抄読会 文献精読	論文を検索し、要約する論文を決定・熟読する
27 抄読会 発表	要約した論文について、パワーポイントを活用してまとめ、発表する
28 個別発表	これまで読んできた論文の中からテーマを1つ絞り、論文を読んだ上で問題意識を発表する
29 次年度のゼミ活動の準備	卒業論文計画についての個別報告を行う
30 秋学期のまとめ	秋学期に学んだ内容を振り返る

授業科目名	専門演習（菅）	担当教員名	菅 正史
科目ナンバリング		開講学期	通年
		単位数	4単位
		配当年次	3年生

授業概要	<p>本演習は、私たちが日常を過ごしている「都市」を対象にします。</p> <p>都市の課題には、その時々の社会経済情勢と、各都市・地区に固有の状況の両方が関係しています。このような都市の課題・解決方策を考えるには、社会・経済に関する「知識」だけでなく、自ら現状を分析・考察することが重要です。</p> <p>本演習では、都市の現状・課題を分析・考察する能力を身につけることを目指します。春学期のはじめは、課題に取り組みながら、ワークショップやフィールド調査、グループワークやプレゼンテーション等に慣れていきます。その後は、統計指標や現地調査により、都市の現状・課題を分析・考察する課題に取り組みます。これらの課題を通じて、身近な「地区」のスケールや、俯瞰的な「都市」のスケールから、都市の課題を考察できるようになることを目指します。演習の後半では、具体的な問題を取り上げ、提案を考える予定です。</p> <p>秋学期の終わりには、4年の卒業研究に向けた文献調査に着手する予定です。</p>			
到達目標	<p>現地調査や統計指標などを通じて、都市の現状・課題を分析・考察できるようになる。</p> <p>自分が調べた・考えた結果を、適切に伝えることができるようになる。</p> <p>グループでの調査・ディスカッション・プレゼンテーションができるようになる。</p>			
評価の方法と基準	評価方法	割合(%)	評価基準・その他備考	
	平常点	100	課題の成果と、取り組み状況をもとに評価する。	
	小テスト			
	レポート			
	定期試験			
	その他			
事前・事後学習	個人・グループで、各課題毎に指示する内容に取り組む。			
事前受講を推奨する科目				
教科書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『教科書は使用しない。』			
参考書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『各課題毎に指示する。』			
備考	人数・進捗・受講生の希望・その他の要因等により、内容を変更することがある。			

授業の計画

		授業の計画
1	オリエンテーション	演習の進め方・注意点等について説明する。
2	イントロダクション	人にとって「良い場所」とは何か、考える。
3	都市の空間認識	視覚・感覚を通じて、身近な場所を「空間」として把握する視点を養う。
4	都市の空間認識	身近な場所の空間的な特徴・課題を調査・分析する。
5	都市の空間認識	身近な場所について調査・分析した結果を空間的に整理する方法を学ぶ。
6	都市の空間認識	グループ調査の結果を発表する。
7	地区の実態認識	地区の統計指標と、良好な地区環境を保つための制度について理解する。
8	地区の実態認識	現地調査を通じて、様々な統計指標と地区の実態との関係を理解する。
9	地区の実態認識	現地調査を通じて、様々な統計指標と地区の実態との関係を理解する。
10	地区の実態認識	統計指標を整理し、地区の実態を把握する。
11	地区の実態認識	統計指標を整理し、地区の実態を把握する。
12	地区の実態認識	グループ調査の結果を発表する。
13	都市構造の分析	地理空間情報システム(GIS)を用いて、都市の統計指標を分析する。
14	都市構造の分析	地理空間情報システム(GIS)を用いて、都市の統計指標を分析する。
15	都市構造の分析	グループ調査の結果を発表する。
16	秋学期の説明	秋学期の進め方を説明する。
17	都市の課題	統計資料を用いて、都市全体の現状・課題を分析する。
18	都市の課題	統計資料を用いて、都市全体の現状・課題を分析する。
19	都市の課題	統計資料を用いて、都市全体の現状・課題を分析する。
20	都市の課題	グループ調査の結果を発表する。
21	政策提案の検討	都市の視点からみた、課題対象地区の位置づけを考える。
22	政策提案の検討	フィールド調査を通じて、対象地区の状況を把握する。
23	政策提案の検討	対象地区の現状・課題を整理する。
24	政策提案の検討	調査・分析結果をふまえて、都市・地区の政策提案を考える。
25	政策提案の検討	グループ調査の結果を発表する。
26	研究論文の読解	卒業研究に向けて、研究論文とはどのようなものかを理解する。
27	個人研究発表	個人研究の発表会を行う。
28	個人研究発表	個人研究の発表会を行う。
29	個人研究発表	個人研究の発表会を行う。
30	まとめ	全体のまとめを行う。

授業科目名	専門演習（杉浦）	担当教員名	杉浦 勝章			
科目ナンバリング		開講学期	通年	単位数	4単位	配当年次 3年生

授業概要	<p>産業、雇用、福祉、環境など、地域が抱える様々な問題を解決する手段が地域政策である。地域政策は単に市役所や県庁が行っているというだけでなく、国の政策からも大きな影響を受けている。専門演習では、地域の直面している問題を理解するとともに、地域政策がどのような仕組みで展開され、機能しているのかを学ぶ。</p> <p>具体的には、地域政策に関するテキストを輪読形式で学習する。毎回、報告者を指定し、担当箇所について報告してもらった後、ディスカッションを行う。また、学期末には、各人の興味のあるテーマに関するレポートの提出を求める。</p>					
到達目標	<p>地域が抱えている問題を理解し、それに対してどのような政策が実施されているかを理解する。あわせて、社会に出た後に必要となる、プレゼンテーションやディスカッションの能力、文章力などを身につけることを目的とする。</p>					
評価の方法と基準	評価方法	割合(%)	評価基準・その他備考			
	平常点	90				
	小テスト					
	レポート	10				
	定期試験					
	その他					
事前・事後学習	<p>教科書の予習は必須です。また、関連する分野の動向をテレビや新聞などで見ておいてください。</p>					
事前受講を推奨する科目						
教科書	書籍名	著者	出版社	出版年		
	『教科書は講義の中で指定する』					
参考書	書籍名	著者	出版社	出版年		
備考	<p>2025年度の教科書は、山崎朗ほか『地域政策』中央経済社、土屋純『地理学で読み解く流通と消費』ペレ出版などを使用しました。2冊目以降は参加者と協議のうえ決定します。また、フィールドワークなどを実施することもあります。ゼミに積極的に参加してくれる人を希望します。</p>					

授業の計画

1	演習の概要説明	授業の進め方、スケジュール等について
2	プレゼンとディスカッションの技法	レジュメの作り方、発表の方法、新聞の読み方等
3	テキスト発表	テキスト発表
4	テキスト発表	テキスト発表
5	テキスト発表	テキスト発表
6	テキスト発表	テキスト発表
7	テキスト発表	テキスト発表
8	テキスト発表	テキスト発表
9	テキスト発表	テキスト発表
10	テキスト発表	テキスト発表
11	テキスト発表	テキスト発表
12	テキスト発表	テキスト発表
13	テキスト発表	テキスト発表
14	テキスト発表	テキスト発表
15	テキスト発表	テキスト発表
16	夏休みの課題の発表	夏休みの課題の発表
17	テキスト発表	テキスト発表
18	テキスト発表	テキスト発表
19	テキスト発表	テキスト発表
20	テキスト発表	テキスト発表
21	テキスト発表	テキスト発表
22	テキスト発表	テキスト発表
23	テキスト発表	テキスト発表
24	テキスト発表	テキスト発表
25	テキスト発表	テキスト発表
26	テキスト発表	テキスト発表
27	テキスト発表	テキスト発表
28	テキスト発表	テキスト発表
29	テキスト発表	テキスト発表
30	就職活動に向けての取組	就職活動に向けての取組

授業科目名	専門演習（鈴木）	担当教員名	鈴木 俊光			
科目ナンバリング		開講学期	通年	単位数	4単位	配当年次 3年生

授業概要	<p>本演習では、労働経済や人事労務管理に関する問題を研究するために、ただ知識を暗記するだけではなく、自分で問題点を発見する力、関連データを読み解く力、関連データを収集・分析する力、適切な資料を作成し自らの意見を他者に伝える力、他者と議論する力を習得することを目指します。</p> <p>春学期は、講義前半ではグループごとに実証論文の発表、講義後半ではPCを使いながら統計・計量分析に関する基本的な理論およびEXCELを用いた初步的な統計分析方法を学びます。秋学期は、講義前半ではグループごとに総務省「統計データ分析コンペティション」への投稿論文作成、講義後半ではPCを使いながら統計分析ソフトRを用いた専門的な計量経済分析方法を学びます。</p> <p>研究テーマは、『労働経済白書』、『経済財政白書』などの政府公表物、新聞記事、TVなどのニュース、SNSで話題になっているテーマなどから各自自由に決めてもらいます。その上で、分析結果をプレゼンテーション形式で報告してもらい、全員で報告内容についてディスカッションを行います。</p>					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・データ分析についての基本的な理論を理解する。 ・データ分析手法を理解し、EXCELやRを用いた統計・計量分析を行うことができる。 ・関心を持ったテーマに関して、適切なデータを用いた分析を行い発表することを通じて、プレゼンテーション能力を向上させる。 ・他者のプレゼンテーションの内容を理解し、ディスカッションすることで、論理的思考能力を向上させる。 					
評価の方法と基準	評価方法	割合(%)	評価基準・その他備考			
	平常点	80	出席とゼミでの参加態度。各自の発表内容。無断欠席者の単位取得は困難。			
	小テスト					
	レポート	20	教員からのフィードバックに対応できているか。			
	定期試験					
	その他					
事前・事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・春学期は毎週2~3時間程度、報告論文について事前・事後学習をすることが望ましい。 ・秋学期は事前送付された報告者の資料に事前に目を通し、演習内で活発な議論ができるようにして望むこと。 					
事前受講を推奨する科目	労働経済論					
	人事労務管理論					
教科書	書籍名	著者	出版社	出版年		
参考書	書籍名	著者	出版社	出版年		
	『Excelで学ぶビジネスデータ分析』	玄場公規、港宣明、豊田裕貴	株式会社オデッセイコミュニケーションズ	2016		
	『Rによる計量経済学（第2版）』	秋山裕	オーム社	2018		
	『データ分析を使ったレポート・論文ハンドブック テーマ探しから執筆まで』	川本真哉・齋藤隆志・水落正明	中央経済社	2025		
備考						

授業の計画

1	ガイダンス	各自から自己紹介してもらうとともに、演習の進め方などについて説明します。
2	報告論文決め・データ分析入門	グループ分けと各グループの担当する報告論文を決めます。基本的な統計理論について学びつつ、EXCELを用いた実習を行います。
3	データ分析入門	基本的な統計理論について学びつつ、EXCELを用いた実習を行います。
4	論文報告・データ分析入門	前半は担当グループによる報告論文に関するプレゼンテーション、後半は基本的な統計理論について学びつつ、EXCELを用いた実習を行います。
5	論文報告・データ分析入門	同上
6	論文報告・データ分析入門	同上
7	論文報告・データ分析入門	同上
8	論文報告・データ分析入門	同上
9	論文報告・データ分析入門	同上
10	論文報告・データ分析入門	同上
11	論文報告・データ分析入門	同上
12	論文報告・データ分析入門	同上
13	論文報告・データ分析入門	同上
14	論文報告・データ分析入門	同上
15	論文報告・データ分析入門	同上
16	投稿論文テーマ決め・データ分析実践	グループ分けと各グループの作成する投稿論文のテーマを決めます。計量経済分析理論について学びつつ、Rを用いた実習を行います。
17	データ分析実践	計量経済分析理論について学びつつ、Rを用いた実習を行います。
18	投稿論文準備・データ分析実践	前半は各グループによる投稿論文準備、後半は計量経済分析理論について学びつつ、Rを用いた実習を行います。
19	投稿論文準備・データ分析実践	同上
20	投稿論文準備・データ分析実践	同上
21	投稿論文準備・データ分析実践	同上
22	投稿論文準備・データ分析実践	同上
23	投稿論文準備・データ分析実践	同上
24	投稿論文準備・データ分析実践	同上
25	投稿論文準備・データ分析実践	同上
26	投稿論文準備・データ分析実践	同上
27	投稿論文準備・データ分析実践	同上
28	投稿論文準備・データ分析実践	同上
29	投稿論文準備・データ分析実践	同上
30	全体総括	各グループの投稿論文について、課題と今後の展望を総括します。

授業科目名	専門演習（関野）	担当教員名	関野 秀明			
科目ナンバリング		開講学期	通年	単位数	4単位	配当年次 3年生

授業概要	テーマは「アベなきアベ政治、アベなきアベノミクスを批判的に検証し、日本国憲法を活かした新しい平和・福祉国家を展望する」です「量的金融緩和はなぜ賃金・雇用を改善できないまま円安インフレに陥ったのか」「ブラック企業、ワーキング・プアの蔓延と社会保障バッシングはどこでつながっているか」「働き方改革はなぜ長時間過密労働をなくせないのか」「TPPや『成長戦略』の推進と海外への自衛隊派兵・集団的自衛権発動はどう関係しているのか」「内需、賃金主導、社会保障重視の新しい福祉国家は可能か」「なぜ社会保障改革と医療崩壊が同時に進むのか」「なぜ不動産バブルと住まいの貧困が同時に進むのか」「インフレ対策・利上げとインフレ放置・景気対策のどちらが正しいのか」等勉強します。現代の世界の大局的な流れを認識し、働く自分と仲間を守る見識を育てるゼミにしましょう。					
到達目標	教員と学生が落ち着いて読書しゆったりと語り合う、知的で居心地の良い空間と時間を協力して作り出すことを目標とします。教員も学生も互いの考え方を尊重して強く否定せず、「なぜ考えが異なるのか」の理由を相互に理解することを目標とします。ゼミとしてのチームワークをお互い大切に、お互い礼儀正しく接することを目標とします。					
評価の方法と基準	評価方法	割合(%)	評価基準・その他備考			
	平常点	50				
	小テスト					
	レポート	50				
	定期試験					
	その他					
事前・事後学習	学術研究書を毎回10ページ程度は読み進めます。報告者2名が報告書(A4判2枚)を作成します。全員で感想や気づきを語り合って事前に準備します。専門演習 30回の授業で扱ったテーマの中から、専門演習における自分なりの卒業論文テーマを選び出し研究を進めます。					
事前受講を推奨する科目	基礎演習（関野担当）		経済原論			
	経済原論		現代資本主義論			
教科書	書籍名		著者	出版社	出版年	
	『金融危機と恐慌』		関野秀明	新日本出版社	2018年	
	『インフレ不況と資本論』		関野秀明	新日本出版社	2024年	
参考書	書籍名		著者	出版社	出版年	
	『下関市立大学 学びのハンドブック』					
備考	専門演習は出席必須の授業です。理由を問わず欠席が2割を超えると評価することが困難になります。「評価の方法」における「レポート」とは、授業内の報告書作成のことです。					

授業の計画

1	ブラック企業と『資本論』(1)	1、「若者絡め取り」メカニズムとマルクス「相対的過剰人口論」
2	ブラック企業と『資本論』(2)	2、「固定残業代」制度とマルクス「時間賃金論」 3、「無限の成果要求」とマルクス「出来高賃金論」
3	貧困、生活保護叩きと『資本論』(1)	1、貧困ゆえの「生活保護バッシング」 2、非正規労働の貧困。有期労働契約法改悪 3、電機正社員13万人リストラという貧困
4	貧困、生活保護叩きと『資本論』(2)	4、「3つの貧困」を結ぶメカニズムと資本主義的格差 5、マルクス「資本の蓄積に照応する貧困の蓄積」論
5	アベノミクスの貧困と戦争への道(1)	1、貧困の特徴 生活苦、非正規増大、正規待遇低下 2、格差の特徴 大企業・富裕層の高収益と労働者の低賃金 3、働く貧困と社会保障削減
6	アベノミクスの貧困と戦争への道(2)	4、矛盾の反動的打開 多国籍企業化と安全保障政策の転換 5、『資本論草稿』における世界市場開拓論。恐慌と世界市場論。
7	アベノミクス・バブルの形成と崩壊(1)	1、アベノミクスの不況脱却策と現実 2、アベノミクス「3本の矢」と金融バブルの形成
8	アベノミクス・バブルの形成と崩壊(2)	3、バブルとは何か - マルクス「資本の過多と過剰生産の相互促進論」
9	アベノミクスの失敗と暴走(1)	1、繰り返される「異次元の金融緩和」の失敗 2、「金融緩和」から「成長戦略」待望への暴走
10	アベノミクスの失敗と暴走(2)	3、アベノミクス・バブル待望論と『資本論』第二部「バブルの論理」
11	アベノミクス成長戦略の欺瞞性(1)	1、「成長戦略」の欺瞞性 2、「欺瞞性」の原因。株価・株主資本主義の台頭 3、アベノミクス「欺瞞性」の限界
12	アベノミクス成長戦略の欺瞞性(2)	4、「株主資本主義」の本質。『資本論』第三部「バブルの論理」と「株式資本」論。
13	リーマン・ショック。発達したバブル(1)	1、ITバブル崩壊、2001年不況と住宅関連バブル 2、米国「新型」住宅関連バブル。そのメカニズム
14	リーマン・ショック。発達したバブル(2)	3、米国住宅関連バブルの崩壊。そのメカニズム
15	リーマン・ショック。発達したバブル(3)	4、住宅関連バブル崩壊と「過剰生産恐慌」 マルクス「金融危機と結合した過剰生産恐慌」論
16	ポスト新自由主義社会の展望(1)	1、コロナ危機 = アベノミクス「複合不況」と金融バブル誘導策 2、マルクス『資本論』第二部第一草稿「恐慌の運動論」に見る「バブルの論理」
17	ポスト新自由主義社会の展望(2)	3、ポスト新自由主義社会の展望 - 『資本論』第一部「資本主義の必然的没落の諸条件」
18	不動産バブルと住まいの貧困(1)	1、アベノミクス不動産バブル誘導政策。3つの仕組みと住まいの貧困
19	不動産バブルと住まいの貧困(2)	2、『資本論』第二部第二篇「不動産バブルの論理」から考える 3、『資本論』第三部「地代、土地価格と架空資本の論理」から考える
20	アベノミクス通商政策の三つの性格(1)	1、アベノミクス通商政策の対米従属的戦略と欺瞞的戦術 2、マルクスの世界市場論
21	アベノミクス通商政策の三つの性格(2)	3、信用と世界市場による「架空の需要」形成 4、信用主義から重金属主義への転化と「架空の需要」崩壊
22	『インフレ不況』と『資本論』(1)	1、アベノミクス「インフレ不況」の現実と行き詰り。
23	『インフレ不況』と『資本論』(2)	2、マルクスの「バブルの論理」と中央銀行信用、インフレーション 3、アベノミクス「インフレ不況」からの脱却
24	最低賃金1500円と賃金主導型成長(1)	1、低賃金・長期停滞の現状と最賃全国一律1500円の意義
25	最低賃金1500円と賃金主導型成長(2)	2、最低賃金全国一律1500円実現の方法 - 必要な中小企業支援策と財源 -
26	少子化を克服する新福祉国家(1)	1、少子化の原因(1)社会保障の貧困と消費税
27	少子化を克服する新福祉国家(2)	2、少子化の原因(2)「働き方改革」 = 「働く貧困の増加」
28	少子化を克服する新福祉国家(3)	3、「賃金主導型経済成長」と「新しい福祉国家」を支える財源論
29	少子化を克服する新福祉国家(4)	4、労働者階級の再生産を可能にする賃金と「資本主義的生産様式に固有な人口法則」
30	専門演習 と卒業論文研究についての説明	春学期のテーマ設定ゼミ、故人報告ゼミ、夏季休講期間の卒論研究ノートづくり、秋学期の故人報告、中間原稿執筆について。

授業科目名	専門演習（田尻）	担当教員名	田尻 敬昌			
科目ナンバリング		開講学期	通年	単位数	4単位	配当年次 3年生

授業概要	<p>地域の事業所と協力して、新商品（または製品、サービス）の企画をしながら、原価や予算管理について学ぶ。商品・製品などに限らず、イベントの企画などでも問題ない。</p> <p>何をやるのか、わからないという人のために、過去に実行した例を挙げると、地域のパン屋さんと共同で、地元のかぼちゃを使った「あんパン」を新商品として、企画・販売した。</p> <p>これは、あくまでも一例に過ぎないので、みなさんがやりたいことを提案してほしい。</p> <p>春学期は、いろいろな事例を見ながら、「何をしたいのか」を考えて、企画を練り、事業計画書などを作成していくことに重点を置く。</p> <p>秋学期は、それらを実行して、利益やコスト面から「振り返り」を行う。</p> <p>このような授業を通して、課題解決力やコミュニケーション能力を身につけてほしい。</p>					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画書を完成させることができる。 ・プロジェクトを実行することができる。 ・プロジェクトの成果や反省点を整理することができる。 ・課題解決力やコミュニケーション能力を伸ばすことができる。 					
評価の方法と基準	評価方法	割合(%)	評価基準・その他備考			
	平常点	50				
	小テスト					
	レポート	50				
	定期試験					
	その他					
事前・事後学習	<p>地域におけるいろいろな取り組みを調べて、やりたいことを考えてほしい。</p> <p>しっかりとプロジェクトを振り返り、今後、それをどのように発展させができるか検討しよう。</p>					
事前受講を推奨する科目	簿記原理					
教科書	書籍名	著者	出版社	出版年		
	『なし』					
参考書	書籍名	著者	出版社	出版年		
	『下関市立大学 学びのハンドブック』					
備考						

授業の計画

1	ガイダンス	これからのゼミの進め方などについて話し合う。
2	簡単な会計の復習	損益計算書や貸借対照表などの復習を行う。
3	原価計算の概要	原価計算における費目別計算を概観する。
4	製品別原価計算	個別原価計算と単純総合原価計算について簡単に学ぶ。
5	原価企画の概要	原価企画について概観する。
6	プロジェクトの企画に向けて	いろいろな大学のゼミの取り組みについて学ぶ。
7	やりたいことを考える	地域や社会で行われている取り組みについて調べる。
8	やりたいことを考える	やりたいことについて議論する。
9	やりたいことを考える	やりたいことの方向性を決める。
10	事業計画書の書き方	事業計画書の書き方を学ぶ。
11	事業計画書の作成	事業計画書を作成する。
12	事業計画書の発表	事業計画書を報告する。
13	事業計画書の修正	計画の問題点について、議論し修正する。
14	事業計画書の発表	修正した事業計画書を報告する。
15	春学期の振り返り	15回の授業を振り返りつつ、秋学期に向けてやるべきことを整理する。
16	ガイダンス	15回目の授業を振り返りつつ、やるべきことを具体化させる。
17	打ち合わせの準備	地域の事業者（協力者）との打ち合わせに向けた準備を行う。
18	地域の事業者（協力者）との打ち合わせ	地域の事業者（協力者）との打ち合わせを行う。
19	打ち合わせの振り返り	地域の事業者（協力者）との打ち合わせを行った結果、修正すべき点について検討する。
20	地域の事業者（協力者）との打ち合わせ	地域の事業者（協力者）との打ち合わせを行い、プロジェクト実施の許可を得る。
21	詳細な行動計画の作成	詳細な行動計画を作成する。
22	公的書類の確認と作成	公的機関の許可について、再確認し、必要な書類を作成する。
23	地域の事業者（協力者）との打ち合わせ	地域の事業者（協力者）と最終的な打ち合わせを行う。
24	必要な物資の調達	必要な物資を調達する。
25	プロジェクトの実行	プロジェクトを実行する。
26	プロジェクトの振り返り	プロジェクトの振り返りを行い、課題等を洗い直す。
27	協力者へのお礼	協力者にお礼のあいさつへ行く。
28	報告書の作成	今回のプロジェクトについて報告書を作成する。
29	報告書の発表	プロジェクトの成果を発表し、様々な意見を集めて、議論を行う。
30	1年間の振り返り	1年間の振り返りを行う。後輩たちに、引き継ぐ成果や反省点をまとめる。

授業科目名	専門演習（鶴沢）	担当教員名	鶴沢 真			
科目ナンバリング		開講学期	通年	単位数	4単位	配当年次 3年生
授業概要	<p>本演習では、金融やファイナンスに関連する幅広いテーマについて、研究テーマを探り、調査と分析が行える能力を養うとともに、ビジネスにおける実践（実戦）的な能力を身に着けてもらうことを目指します。前半は、株式投資や企業分析に関するグループワークを中心とする。後半は、それぞれのテーマに応じた調査とデータを活用した実証分析が行えるようなトレーニングを行っていく。金融に関する理論的な基礎を理解したうえで、エビデンスにもとづいて自らの考え方を整理し、他人へわかりやすい説明ができるようになることが望まれる</p>					
到達目標	<p>(1)自らの研究テーマを探すことができるようになる (他の人も興味を示すテーマが望ましい) (2)説得力のある調査とデータを利用した実証分析が出来るようになる (3)筋道を立てて構成され、論理的な文章を書けるようになる (4)効果的なグループワークを行えるようになる (チームビルディング、リーダーシップ、効率的な役割分担)</p>					
評価の方法と基準	評価方法	割合(%)	評価基準・その他備考			
	平常点	50%				
	小テスト					
	レポート	50%				
	定期試験					
	その他					
事前・事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・Google Classroomを利用します ・学生自身による発表を中心に進めるため、事前の準備が求められます ・グループワークでは、グループ単位での事前の予習や準備が必要となります 					
事前受講を推奨する科目	金融論		計量経済学			
	金融論					
教科書	書籍名		著者	出版社	出版年	
	『やさしい株式投資 第2版』		日本経済新聞社	日経文庫	2017	
参考書	書籍名		著者	出版社	出版年	
	『テキスト金融論 第2版』		堀江康熙・有岡律子・森祐司	新世社	2021	
	『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』		伊藤 公一朗	光文社新書	2017	
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・この授業は、金融機関での実務経験のある教員が行う授業です。 					

授業の計画

		授業の計画
1	イントロダクション・自己紹介	演習内容の概要と進め方 グループ分け
2	株式投資と企業分析の基礎(1)	『やさしい株式投資 第2版』、他企業分析資料
3	株式投資と企業分析の基礎(2)	『やさしい株式投資 第2版』、他企業分析資料
4	株式投資と企業分析の基礎(3)	『やさしい株式投資 第2版』、他企業分析資料
5	株式投資と企業分析の基礎(4)	『やさしい株式投資 第2版』、他企業分析資料
6	株式投資と企業分析の基礎(5)	『やさしい株式投資 第2版』、他企業分析資料
7	株式投資と企業分析の基礎(6)	『やさしい株式投資 第2版』、他企業分析資料
8	株式投資シミュレーションと企業分析(1)	グループワーク
9	株式投資シミュレーションと企業分析(2)	グループワーク
10	株式投資シミュレーションと企業分析(3)	グループワーク
11	株式投資シミュレーションと企業分析(4)	グループワーク
12	株式投資シミュレーションと企業分析(5)	グループワーク
13	株式投資シミュレーションと企業分析(6)	グループワーク
14	株式投資シミュレーションと企業分析(7)	グループワーク
15	株式投資シミュレーションと企業分析(8)	グループワーク
16	後期のイントロダクション	後期演習内容の概要と進め方
17	実証分析(1)	調査の手法とデータを利用した実証分析
18	実証分析(2)	調査の手法とデータを利用した実証分析
19	実証分析(3)	調査の手法とデータを利用した実証分析
20	実証分析(4)	調査の手法とデータを利用した実証分析
21	実証分析(5)	調査の手法とデータを利用した実証分析
22	実証分析(6)	調査の手法とデータを利用した実証分析
23	学外授業（フィールドワーク）	金融機関等での現場でのデータ活用の実施状況を確認し、金融に関する実践的な知識を得る。
24	テーマ別発表	(テーマ例) フリマアプリとシェアリングエコノミー
25	テーマ別発表	(テーマ例) キャッシュレス決済の進展と利用要因
26	テーマ別発表	(テーマ例) 生成AIの活用と金融業務
27	テーマ別発表	(テーマ例) 銀行業のDX化
28	テーマ別発表	(テーマ例) CBDC（中央銀行デジタル通貨）と暗号資産（仮想通貨）
29	テーマ別発表	(テーマ例) スタートアップファイナンスと日本のFintech企業
30	各自テーマの整理と課題	今年度の演習での活動と各自テーマの整理、次年度に向けた課題

授業科目名	専門演習（中川）	担当教員名	中川 圭輔			
科目ナンバリング		開講学期	通年	単位数	4単位	配当年次 3年生
授業概要	「企業倫理」を本演習のテーマとする。春学期は、企業倫理に関する教科書を輪読する。企業経営に関する時事ネタを簡単に報告する。秋学期は、受講生が経営学の範囲内でテーマを決め、順次、中間報告を進める。学期末に、中間報告の内容をベースとした簡易レポートを提出する。なお、夏季休業中に簡単な業界研究課題（就職活動の業界研究を兼ねた課題）に取り組んでいただき、秋学期に発表してもらう予定である。					
到達目標	経営学の範囲内で、ゼミ生が自由にテーマを設定し、自説を唱えられるよう適宜研鑽していく。また、ゼミ活動において文章力、プレゼン力、質疑応答力、チームワーク、司会進行力（場回し力）、時間管理力などの一連の社会人スキルの向上を目指す。					
評価の方法と基準	評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考			
	平常点	70	演習への関与度（出席回数3分の2以上、積極的な発言、報告と司会担当等）			
	小テスト					
	レポート	30	学期末に提出する簡易レポート（2,000字程度）			
	定期試験					
	その他					
事前・事後学習	事前学習として、次回輪読する教科書の該当箇所を一読し、皆で議論したい点や疑問点を明らかにしておくこと。なお、報告担当者はレジュメを作成し、報告に向けた準備を万全にしてくること。 事後学習として、配布されたレジュメを見直し、学んだ内容を復習すること。					
事前受講を推奨する科目						
教科書	書籍名	著者	出版社	出版年		
	『理論とケースで学ぶ企業倫理入門』	高浦康有、藤野真也 編	白桃書房	2022年		
参考書	書籍名	著者	出版社	出版年		
備考	毎時のゼミ運営は学生主導で進める。なお、欠席や遅刻をした場合の理由は特段問わないが、報告担当日に報告を怠った場合は減点措置を講じるので受講生は注意のこと。					

授業の計画

1	オリエンテーション	春・秋学期予定表の提示、毎時の演習の進め方を確認、指定教科書のレジュメ担当箇所の割り当て等。
2	教科書の概要報告	前半は予め分担した章の概要を報告し、内容に関して意見交換をする。 後半は企業経営に関する時事ネタを報告する。
3	教科書の概要報告	前半は予め分担した章の概要を報告し、内容に関して意見交換をする。 後半は企業経営に関する時事ネタを報告する。
4	教科書の概要報告	前半は予め分担した章の概要を報告し、内容に関して意見交換をする。 後半は企業経営に関する時事ネタを報告する。
5	教科書の概要報告	前半は予め分担した章の概要を報告し、内容に関して意見交換をする。 後半は企業経営に関する時事ネタを報告する。
6	教科書の概要報告	前半は予め分担した章の概要を報告し、内容に関して意見交換をする。 後半は企業経営に関する時事ネタを報告する。
7	教科書の概要報告	前半は予め分担した章の概要を報告し、内容に関して意見交換をする。 後半は企業経営に関する時事ネタを報告する。
8	教科書の概要報告	前半は予め分担した章の概要を報告し、内容に関して意見交換をする。 後半は企業経営に関する時事ネタを報告する。
9	教科書の概要報告	前半は予め分担した章の概要を報告し、内容に関して意見交換をする。 後半は企業経営に関する時事ネタを報告する。
10	教科書の概要報告	前半は予め分担した章の概要を報告し、内容に関して意見交換をする。 後半は企業経営に関する時事ネタを報告する。
11	教科書の概要報告	前半は予め分担した章の概要を報告し、内容に関して意見交換をする。 後半は企業経営に関する時事ネタを報告する。
12	教科書の概要報告	前半は予め分担した章の概要を報告し、内容に関して意見交換をする。 後半は企業経営に関する時事ネタを報告する。
13	教科書の概要報告	前半は予め分担した章の概要を報告し、内容に関して意見交換をする。 後半は企業経営に関する時事ネタを報告する。
14	教科書の概要報告	前半は予め分担した章の概要を報告し、内容に関して意見交換をする。 後半は企業経営に関する時事ネタを報告する。
15	教科書の概要報告	前半は予め分担した章の概要を報告し、内容に関して意見交換をする。 後半は企業経営に関する時事ネタを報告する。
16	簡易レポートのテーマの概要報告	前半は秋学期の予定を確認した後、各自の担当日を割り当てる。 後半は簡易レポートのテーマの概要を報告する。
17	夏季休業中課題の成果報告	夏季休業中課題の成果概要を報告し、内容について質疑応答をする。
18	夏季休業中課題の成果報告	夏季休業中課題の成果概要を報告し、内容について質疑応答をする。
19	夏季休業中課題の成果報告	夏季休業中課題の成果概要を報告し、内容について質疑応答をする。
20	受講生の中間報告	簡易レポートに関する中間報告を実施し、内容に関して質疑応答を行う。
21	受講生の中間報告	簡易レポートに関する中間報告を実施し、内容に関して質疑応答を行う。
22	受講生の中間報告	簡易レポートに関する中間報告を実施し、内容に関して質疑応答を行う。
23	受講生の中間報告	簡易レポートに関する中間報告を実施し、内容に関して質疑応答を行う。
24	受講生の中間報告	受講生の中間報告を実施し、内容に関して質疑応答を行う。
25	受講生の中間報告	簡易レポートに関する中間報告を実施し、内容に関して質疑応答を行う。
26	受講生の中間報告	簡易レポートに関する中間報告を実施し、内容に関して質疑応答を行う。
27	受講生の中間報告	簡易レポートに関する中間報告を実施し、内容に関して質疑応答を行う。
28	受講生の中間報告	簡易レポートに関する中間報告を実施し、内容に関して質疑応答を行う。
29	受講生の中間報告	簡易レポートに関する中間報告を実施し、内容に関して質疑応答を行う。
30	まとめ - 論文発表会	ほぼ完成した受講生各自の簡易レポートの概要を報告する。

授業科目名	専門演習（長濱）	担当教員名	長濱 幸一			
科目ナンバリング		開講学期	通年	単位数	4単位	配当年次

授業概要	<p>(テーマ) 西洋経済史・西洋史のゼミです。このゼミは「現代と過去の対話」を大きなテーマとして掲げています。2026年度は「感情史」「観光史」の二つをテーマに掲げる予定です。</p> <p>(ゼミの進め方) 春学期は文献講読を中心にして、「まとめる」「発表する」「質問する」といった基本的な学びのパターンを修得してもらいます。その後、グループで研究を進めていくことにします。また外国史のゼミですので、英語の文献講読にも取り組む予定です。二つのテーマに関しては、比較的新しい文献が揃っているため、それらを利用する予定です。秋学期はグループ研究と並行しながら卒論の準備作業を進めてもらいます。</p> <p>(その他) 大学内の机上の学問を大事にすることに加えて、大学外の活動も取り組んでみたいと思っています。ゼミ研修や他大学との交流などは、皆さんを大きく成長させます。多少の出費が必要になると思われますが、積極的に参加してください。また大学は主体的に学ぶところという意識も持っていてください。</p>																							
到達目標	<p>1.歴史的視野(長期的な視野)から特定の問題を考察することができるようになる 2.講読文献の意図や他者の意見を適切に理解し、まとめることができるようになる 3.自分の見解を適切に表現できるようになる 4.英語文献に触れ、知的好奇心を高めることができる 5.大学で学んだという自信を持つことができる 以上のような到達目標を掲げたいと思います。</p>																							
評価の方法と基準	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法</th> <th>割合(%)</th> <th>評価基準・その他備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平常点</td> <td>50</td> <td>ゼミへの参加とパフォーマンス</td> </tr> <tr> <td>小テスト</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>50</td> <td>個人およびグループ研究の実施</td> </tr> </tbody> </table>						評価方法	割合(%)	評価基準・その他備考	平常点	50	ゼミへの参加とパフォーマンス	小テスト			レポート			定期試験			その他	50	個人およびグループ研究の実施
評価方法	割合(%)	評価基準・その他備考																						
平常点	50	ゼミへの参加とパフォーマンス																						
小テスト																								
レポート																								
定期試験																								
その他	50	個人およびグループ研究の実施																						
事前・事後学習	<p>特にグループ研究では授業時間以外に多くの文献を講読し、それを基に議論してもらう必要があります。勉強量の多いゼミであることは間違いないません。その分、成長を実感してもらえると考えていますが、学外活動の楽しさだけでこのゼミを選ぶと大変です。責任感を持って取り組むことを期待しています。</p>																							
	<p>西洋史</p>																							
	<p>西洋経済史</p>																							
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>『教科書は特に指定しません』</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					書籍名	著者	出版社	出版年	『教科書は特に指定しません』														
書籍名	著者	出版社	出版年																					
『教科書は特に指定しません』																								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>『下関市立大学 学びのハンドブック』</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					書籍名	著者	出版社	出版年	『下関市立大学 学びのハンドブック』															
書籍名	著者	出版社	出版年																					
『下関市立大学 学びのハンドブック』																								
<p>* 上級生から学ぶことも多いため、3、4年生合同のゼミを基本にしています。そのため5時間目も参加してもらうことがあります。 * 学外研修や他大学との合同ゼミなどを実施します。費用が発生するため、留意してください。 * 大学での学びでも大事な活動だと考えています。主体的に、熱意をもって参加してくださることを期待しています。 * 感染症の状況により計画が大きく変わる可能性があります。</p>																								

授業の計画

1	ガイダンス	1年間のスケジュールの確認、受講者の自己紹介など
2	基礎文献の講読・議論	ゼミの基本的な知識となる基礎文献を講読・議論し、理解を深める
3	基礎文献の講読・議論	ゼミの基本的な知識となる基礎文献を講読・議論し、理解を深める
4	基礎文献の講読・議論	ゼミの基本的な知識となる基礎文献を講読・議論し、理解を深める
5	基礎文献の講読・議論	ゼミの基本的な知識となる基礎文献を講読・議論し、理解を深める
6	専門文献の講読・議論	基礎文献を踏まえて、より専門性の高い文献を講読し、理解を深めていく
7	専門文献の講読・議論	基礎文献を踏まえて、より専門性の高い文献を講読し、理解を深めていく
8	専門文献の講読・議論	基礎文献を踏まえて、より専門性の高い文献を講読し、理解を深めていく
9	専門文献の講読・議論	基礎文献を踏まえて、より専門性の高い文献を講読し、理解を深めていく
10	学外研修	ゼミの学びに関係する場所を訪問し、机上の学びを補完する
11	英文献の講読・議論	西洋経済史・西洋史に関わる英論文・文献の講読にも挑戦したい。
12	英文献の講読・議論	西洋経済史・西洋史に関わる英論文・文献の講読にも挑戦したい。
13	英文献の講読・議論	西洋経済史・西洋史に関わる英論文・文献の講読にも挑戦したい。
14	英文献の講読・議論	西洋経済史・西洋史に関わる英論文・文献の講読にも挑戦したい。
15	ゼミ前半の振り返り	半年間の学びを振り返り、夏季休暇中の取り組みについて確認する
16	秋学期のガイダンス	秋学期のスケジュールを確認し、グループ研究などの取り組むべき課題を共有する
17	英文献の講読・議論	西洋経済史・西洋史に関わる英論文・文献の講読にも挑戦したい。
18	英文献の講読・議論	西洋経済史・西洋史に関わる英論文・文献の講読にも挑戦したい。
19	英文献の講読・議論	西洋経済史・西洋史に関わる英論文・文献の講読にも挑戦したい。
20	グループ研究報告	グループでテーマを設定し、他大学との合同報告会などに向けた報告を作成していく
21	グループ研究報告	グループでテーマを設定し、他大学との合同報告会などに向けた報告を作成していく
22	グループ研究報告	グループでテーマを設定し、他大学との合同報告会などに向けた報告を作成していく
23	学内合同報告会	下関市立大学で学ぶ他のゼミと合同で報告会を行い、ここまで学びの成果を示す
24	他大学との合同報告会	グループ研究の成果を発表するとともに、他大学の活動内容についての理解を深める
25	他大学との合同報告会	グループ研究の成果を発表するとともに、他大学の活動内容についての理解を深める
26	個別研究報告	卒業論文に向けた各自の取り組みを報告する
27	個別研究報告	卒業論文に向けた各自の取り組みを報告する
28	個別研究報告	卒業論文に向けた各自の取り組みを報告する
29	個別研究報告	卒業論文に向けた各自の取り組みを報告する
30	総括	1年間の学びを振り返る

授業科目名	専門演習（西田）	担当教員名	西田 郁子			
科目ナンバリング		開講学期	通年	単位数	4単位	配当年次

授業概要	<p>【本演習のテーマ：ビジネスシステム】</p> <p>日本の産業社会では、それぞれの産業固有の問題に対応するため、メーカーや取引関係にある企業が協力して様々なビジネスシステム（顧客に製品を届けるまでの事業の仕組み）がつくり出されてきました。本演習では、そのようなビジネスシステムがなぜ維持・継続できているかを、経営学の概念に関連づけて考えていきます。</p> <p>まず、グループワークにより企業の戦略とチャネル選択の関係について考えます。</p> <p>さらに、文献の輪読をつうじて、分野（垂直統合型ビジネスモデル、プラットフォームビジネスなど）ごとに代表的な理論枠組みや特徴的な企業の取組について把握し、他者に説明できるように知識を深めます。</p> <p>秋学期後半には、それまでに得られた知見をもとにして、卒業論文で取り組む新たな研究課題を各自で検討します。</p>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 文献を読み、要約を作成し、（その文献を読んだことのない他者にわかりやすく）報告できるようになる 経営学の概念（キーワード）を用いて、企業活動を分析できるようになる グループディスカッションをつうじた、コミュニケーション能力の向上 就活を意識し、社会情勢の変化にアンテナを高くはれるようになる 									
評価の方法と基準	評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考							
	平常点	80	演習内の報告内容やディスカッションへの貢献度・積極性							
	小テスト									
	レポート	20								
	定期試験									
	その他									
事前・事後学習	<p>指定された文献の輪読について、十分な下調べを行い、文献内容を十分に理解したうえで、ディスカッションに積極的に参加できるよう準備すること。</p> <p>（準備と復習あわせて毎回4時間以上）</p>									
事前受講を推奨する科目										
教科書	書籍名	著者	出版社	出版年						
	『教科書は指定しない』									
参考書	書籍名	著者	出版社	出版年						
	『はじめての流通 新版』	崔容熏・原頼利・東伸一	有斐閣	2022						
	『流通・営業戦略』	小林哲・南知恵子	有斐閣	2004						
	『経営戦略』	井上達彦・中川功一・川瀬真紀	中央経済社	2019						
備考	<p>輪読に使用する文献の内容は、経営学分野（多角化的マネジメント、垂直統合型ビジネスモデル、プラットフォームビジネス、国際化のマネジメントなど）から、受講生の関心事項に応じ選定する予定です。</p> <p>演習内容などは受講生の希望などを踏まえて適宜変更することがあります。</p> <p>授業計画は進捗状況に応じて変更することができます。</p>									

授業の計画

1	ガイダンス	スケジュールの説明など
2	ビジネスゲーム(1)	サプライチェーン・マネジメントとは 流通業と製造業の立場を疑似体験
3	ビジネスゲーム(2)	サプライチェーン・マネジメントとは 流通業と製造業の立場を疑似体験
4	グループワーク	生鮮食品の流通チャネル調査(1) グループ編成、事前準備
5	グループワーク	生鮮食品の流通チャネル調査(2)
6	グループワークのまとめ	発表、全体ディスカッション
7	文献の輪読_1回目(1)	テーマ：「生産財の取引」 グループ編成、グループディスカッション
8	文献の輪読_1回目(2)	発表・全体ディスカッション
9	文献の輪読_2回目(1)	テーマ：「組織営業」 グループ編成、グループディスカッション
10	文献の輪読_2回目(2)	発表・全体ディスカッション
11	商社(卸売業)の仕事(1)	生産者と小売業者をつなぐ卸売業の役割
12	商社(卸売業)の仕事(2)	商社における活動の実際 (ゲストスピーカーを迎える予定です)
13	文献の輪読_3回目(1)	テーマ：「サービス財の取引」 グループ編成、グループディスカッション
14	文献の輪読_3回目(2)	発表・全体ディスカッション
15	卒論テーマの検討(1)	卒論で取り上げたい企業の検討、情報収集の方法
16	後半ガイダンス	夏休み期間中のふりかえり、スケジュールの説明など
17	卒論中間発表	4年生による中間発表会へ参加
18	文献の輪読_4回目(1)	テーマ：「プラットフォームビジネス」 グループ編成、グループディスカッション
19	文献の輪読_4回目(2)	発表・全体ディスカッション
20	文献の輪読_5回目(1)	テーマ「多角化のマネジメント」 グループ編成
21	文献の輪読_5回目(2)	グループディスカッション
22	文献の輪読_5回目(3)	発表、全体ディスカッション
23	文献の輪読_6回目(1)	テーマ：「垂直統合型ビジネスモデル」 グループ編成
24	文献の輪読_6回目(2)	グループディスカッション
25	文献の輪読_6回目(3)	発表、全体ディスカッション
26	文献の輪読_7回目(1)	テーマ：「国際化のマネジメント」 グループディスカッション
27	文献の輪読_7回目(2)	発表、全体ディスカッション
28	卒論テーマの検討(2)	卒論で取り上げたい企業・組織の検討・発表
29	卒論テーマの検討(3)	卒論で取り上げたい企業・組織の検討・発表
30	卒論発表会	4年生による発表会へ参加

授業科目名	専門演習（野津）	担当教員名	野津 隆臣			
科目ナンバリング		開講学期	通年	単位数	4単位	配当年次 3年生

授業概要	<p>私は、大学において時間のあるときはゲーム理論を勉強していることが多いです。そこで、専門演習ではゲーム理論の話題を提供しようと思います。</p> <p>ゲーム理論は人間の意思決定を分析する理論といえて、社会や経済の分析に有用なツールです。どんな議論が展開されるのか、それは授業にて皆さんとの目で確かめてほしいですが（とはいえ、ゼミ選びの段でゲーム理論のことをあれこれ調べてみることには推奨されます）、例え今は見当つかずとも、どうやらゲーム理論の対象は広そうです。だって、人間の意思決定を分析する理論というのだから。本授業では、教科書の輪読などを通じてゲーム理論をイチから学びます。</p> <p>輪読の発表担当者は、教科書の内容を講義するいわば先生です。気合いを入れて準備しよう。発表担当でない者は、授業を楽しく聞くために気合いを入れて教科書を読み、授業では友達を聴らせるコメントを試みよう。</p> <p>順当に学修が進んだとして、4年次の専門演習では卒業論文を執筆することになります。卒業論文に関しては下の備考欄を参照してください。</p>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・よく知られたゲームについて説明できる ・ナッシュ均衡の定義やナッシュ均衡の意味するところを説明できる ・ナッシュ均衡を見つけることができる ・ゲーム理論の基本的な考え方を踏まえた上で、ゲーム理論について友達に説明できる 									
評価の方法と基準	評価方法	割合(%)	評価基準・その他備考							
	平常点	100%	輪読などの取り組み姿勢が評価の対象である							
	小テスト									
	レポート									
	定期試験									
	その他									
事前・事後学習	<p>事前学習：輪読の発表担当者は、教科書の内容を講義してくれるいわば先生である。気合いを入れて準備することが求められる。発表担当でない者は、授業を楽しく聞くために気合いを入れて教科書を読んで授業に参加し、授業中には恰好良いコメントを試みる意識を持つことが求められる。</p> <p>事後学習：授業内容をもう一度整理しよう。やっぱり分かっていなかったこと、新たな疑問が出てきたら次回の授業で発信して解決を試みる。</p>									
事前受講を推奨する科目										
教科書	書籍名	著者	出版社	出版年						
	『日経文庫ゲーム理論』	渡辺隆裕	日本経済新聞出版社	2019						
参考書	書籍名	著者	出版社	出版年						
	『戦略的思考をどう実践するかエール大学式「ゲーム理論」の活用法』	A・ディキシット, B・ネイルバフ	CCCメディアハウス	2010						
備考	<p>4年次の専門演習では一人ひとりが卒業研究に取り組みます。皆さんには興味の持てる問題を見つけてほしい。社会問題に注目するのもよいでしょう。あるいは個人的な関心事に目を向けるのもよいでしょう。価値のある問題との出会いを期待して自由に問題を探そう。問題を見つけたあとは、それに挑むのみ。研究アプローチを模索した結果、それがゲーム理論でなくとも構いません。</p>									

授業の計画

1	イントロダクション	顔合わせ。授業の進め方などを説明する。教員による研究紹介。
2	基礎演習や発展演習の復習	発表の仕方、資料作成について教員主導でおさらいをする。
3	輪読	輪読しながら皆でわいわいゲーム理論を学びたい。
4	輪読	同上
5	輪読	同上
6	輪読	同上
7	輪読	同上
8	輪読	同上
9	輪読	同上
10	輪読	同上
11	輪読	同上
12	輪読	同上
13	輪読	同上
14	輪読	同上
15	前期のまとめ（教員VS.受講者達）	前期の学習内容を問う問題を教員が出題するので、受講者達は力を合わせてそれに答える。
16	前期の復習	ナッシュ均衡の定義など前期のおさらいをする。
17	輪読	前期に引き続き輪読をする。つまり、皆でわいわいゲーム理論を学びたい。
18	輪読	同上
19	輪読	同上
20	輪読	同上
21	輪読	同上
22	輪読	同上
23	輪読	同上
24	輪読	同上
25	輪読	同上
26	輪読	同上
27	輪読	同上
28	輪読	同上
29	後期のまとめ（教員VS.受講者達）	後期の学習内容を問う問題を教員が出題するので、受講者達は力を合わせてそれに答える。
30	専門演習 に向けて	専門演習 での展望をお互いに話したり聞いたりする。

授業科目名	専門演習（日高）	担当教員名	日高 卓朗			
科目ナンバリング		開講学期	通年	単位数	4単位	配当年次 3年生

授業概要	ビジネスや経済政策について歴史的視点から学ぶゼミです。過去の経済・経営・商業を扱った専門書の輪読を通じて、歴史的事例から有意義な教訓を引き出し、現代を相対化することを目指します。輪読対象とする書籍は基本的に日本語文献を予定していますが、参加者の希望があれば、英語文献も対象とします。なお、回によっては、専門書ではなく論文を報告・議論の対象とすることや、卒業論文作成に向けた参加者の研究報告を行うことがあります。ゼミ研修や他大学ゼミとの交流の実施については、参加者と相談の上で決定します。必要に応じて、歴史的事例に注目する際に必要となる基礎知識や、基本的なデータ分析の方法も修得してもらいます。					
到達目標	1.長期的な視点から経済・経営・商業の問題を考察することができるようになる。 2.課題文献の内容を適切に整理し、わかりやすく報告できるようになる。 3.自分の見解を、根拠と共に明確に示すことができるようになる。					
評価の方法と基準	評価方法	割合(%)	評価基準・その他備考			
	平常点	100	出欠の状況、ゼミ中のパフォーマンス			
	小テスト					
	レポート					
	定期試験					
	その他					
事前・事後学習	事前学習として、割り当てられた課題文献をよく読み、ゼミにおける報告・質疑応答の準備を行うこと。事後学習として、ゼミにおける議論で扱った内容を調べて理解を深めること。					
事前受講を推奨する科目	経営史		ミクロ経済学			
	商業史					
教科書	書籍名		著者	出版社	出版年	
	『教科書は使用しない』					
参考書	書籍名		著者	出版社	出版年	
	『コア・テキスト経済史：増補版』		岡崎哲二	新世社	2016	
	『経済社会の学び方：健全な懐疑の目を養う』		猪木武徳	中央公論新社	2021	
備考	ゼミの人数や学生の希望によって、スケジュールを変更することがある。					

授業の計画

1	ガイダンス(1)	1年間のスケジュールの確認や、参加者の自己紹介等を行う。
2	基礎文献の講読・議論	専門書の輪読に必要な知識を学ぶために、基礎文献を講読・議論する。
3	基礎文献の講読・議論	専門書の輪読に必要な知識を学ぶために、基礎文献を講読・議論する。
4	基礎文献の講読・議論	専門書の輪読に必要な知識を学ぶために、基礎文献を講読・議論する。
5	基礎文献の講読・議論	専門書の輪読に必要な知識を学ぶために、基礎文献を講読・議論する。
6	専門文献の講読・議論	専門書を輪読し、ゼミでの報告と議論を通じて理解を深める。
7	専門文献の講読・議論	専門書を輪読し、ゼミでの報告と議論を通じて理解を深める。
8	専門文献の講読・議論	専門書を輪読し、ゼミでの報告と議論を通じて理解を深める。
9	専門文献の講読・議論	専門書を輪読し、ゼミでの報告と議論を通じて理解を深める。
10	専門文献の講読・議論	専門書を輪読し、ゼミでの報告と議論を通じて理解を深める。
11	専門文献の講読・議論	専門書を輪読し、ゼミでの報告と議論を通じて理解を深める。
12	専門文献の講読・議論	専門書を輪読し、ゼミでの報告と議論を通じて理解を深める。
13	専門文献の講読・議論	専門書を輪読し、ゼミでの報告と議論を通じて理解を深める。
14	専門文献の講読・議論	専門書を輪読し、ゼミでの報告と議論を通じて理解を深める。
15	ゼミ前半の振り返り	半年間のゼミでの学びを振り返り、夏季休暇中の作業について確認する。
16	ガイダンス(2)	秋学期のスケジュールを確認し、取り組むべき課題を明確にする。
17	専門文献の講読・議論	専門書を輪読し、ゼミでの報告と議論を通じて内容を理解する。
18	専門文献の講読・議論	専門書を輪読し、ゼミでの報告と議論を通じて内容を理解する。
19	専門文献の講読・議論	専門書を輪読し、ゼミでの報告と議論を通じて内容を理解する。
20	専門文献の講読・議論	専門書を輪読し、ゼミでの報告と議論を通じて内容を理解する。
21	専門文献の講読・議論	専門書を輪読し、ゼミでの報告と議論を通じて内容を理解する。
22	専門文献の講読・議論	専門書を輪読し、ゼミでの報告と議論を通じて内容を理解する。
23	専門文献の講読・議論	専門書を輪読し、ゼミでの報告と議論を通じて内容を理解する。
24	専門文献の講読・議論	専門書を輪読し、ゼミでの報告と議論を通じて内容を理解する。
25	専門文献の講読・議論	専門書を輪読し、ゼミでの報告と議論を通じて内容を理解する。
26	個別研究報告	卒業論文の作成に向けた取り組みを報告する。
27	個別研究報告	卒業論文の作成に向けた取り組みを報告する。
28	個別研究報告	卒業論文の作成に向けた取り組みを報告する。
29	個別研究報告	卒業論文の作成に向けた取り組みを報告する。
30	総括	1年間の学びを振り返る。

授業科目名	専門演習（平山）	担当教員名	平山也寸志			
科目ナンバリング		開講学期	通年	単位数	4単位	配当年次 3年生

授業概要	<p>本演習は民法を対象とする。民法は商品を買う、家を借りる、お金の貸し借りをするなどの我々「市民」が日々の暮らしのための「消費者」としての社会生活を広く規律する法の基礎である。また、民法は、仕事をするために必要な「事業者」間取引の基礎でもある。そして、民法は、その第3編（債権編）を中心とする改正法が2020年4月から施行されている。更に、民法は、認知症高齢者等の身上監護・財産管理のための成年後見制度の基礎でもある。同制度は、成年後見制度利用促進法（2016年施行）に基づき、その利用を促進する施策が施されつつある。</p> <p>本演習では、以上のような民法に関する学説・判例・社会問題等を取り上げ、検討を行う予定である。具体的には、上述のテーマ等について、グループ等で協力して調べたことをレジュメ資料等を作成して報告してもらうことを予定している。</p> <p>授業には、受講生の有益な希望は反映する。なお、時代の先端を行く法学の情報が得られればそれ等も提供する予定である。</p>					
到達目標	<p>グループで、又は、各自で、報告テーマを選択し、テーマに関する文献を探索し、収集して読み、テーマについての検討結果をレジュメ等の資料に作成し、報告できるようにすること。</p> <p>報告に際して、質疑応答に参加すること。</p>					
評価の方法と基準	評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考			
	平常点	30%	授業に参加し、質疑応答すること等。			
	小テスト	0%				
	レポート	30%	夏休みの課題。			
	定期試験	0%				
	その他	40%	報告の準備及び報告。			
事前・事後学習	<p>下記の事前受講の推奨科目を履修していないなくても構わない。履修することが決定したら、受講前に下記参考書に掲げてある民法の概説書など（あるいは、その他、図書館所蔵の民法の概説書でもよい）を通読しておくことが望ましい。</p> <p>授業開始後は、選択したテーマに関して更に、検討を進めるなどして、卒論テーマをみつけること。</p>					
事前受講を推奨する科目	民法（民法総論）					
教科書	書籍名	著者	出版社	出版年		
	『教科書は使用しない』					
参考書	書籍名	著者	出版社	出版年		
	『判例プラクティス民法 第2版』	松本恒雄ほか編	信山社	2022		
	『プロセス民法講義民法 総則』	後藤・滝沢・片山編	信山社	2020		
	『改正民法〔債権法〕における判例法理の射程』	伊藤進監修	第1法規	2020		
備考	google classroom使用も予定している。必要な資料（最高裁民事判例集など）はその都度、配布する。					

授業の計画

1	ガイダンス	演習の概要説明 方針の決定 テーマの設定の仕方やレジュメの作成の仕方など
2	判例の読み方	最高裁判所民事判例集等の読み方
3	法律文献の探索・収集の仕方	図書館やインターネットでの文献探索・収集
4	債権法改正の概要など	2020年4月から施行されている民法（債権関係）改正の説明
5	グループ学習など	選択テーマについての学習など
6	グループ学習など	選択テーマについての学習など
7	グループ学習など	選択テーマについての学習など
8	グループ学習など	選択テーマについての学習など
9	グループ学習など	選択テーマについての学習など
10	グループ学習など	選択テーマについての学習など
11	グループ学習など	選択テーマについての学習など
12	報告	選択テーマについてのグループ学習等の報告
13	報告	各選択テーマについてのグループ学習等の報告
14	報告	選択テーマについてのグループ学習等の報告
15	まとめ	報告をおえての振り返り、秋学期に向けての課題の設定など
16	レポートの報告	夏休みの課題の報告
17	レポートの報告	夏休みの課題の報告
18	グループ学習など	選択テーマについての学習など
19	グループ学習など	選択テーマについての学習など
20	グループ学習など	選択テーマについての学習など
21	グループ学習など	選択テーマについての学習など
22	グループ学習など	選択テーマについての学習など
23	グループ学習など	選択テーマについての学習など
24	グループ学習など	選択テーマについて学習など
25	グループ学習など	選択テーマについての学習など
26	報告	選択テーマについてのグループ学習等の報告
27	報告	選択テーマについてのグループ学習等の報告
28	報告	選択テーマについてのグループ学習等の報告
29	民法に関する社会問題の検討	民法に関する社会問題を取り上げ、全体で検討する。
30	全体のまとめ	通年の専門演習を振り返っての反省。卒論作成のガイダンスなど（テーマの選択の仕方、資料収集の仕方など）。

授業科目名	専門演習（藤井）	担当教員名	藤井 崇			
科目ナンバリング		開講学期	通年	単位数	4単位	配当年次

授業概要	<p>(テーマ) こちらは前近代日本史・日本経済史のゼミです。教員は日本中世後期の周防国の大名大内家の政治・経済史の研究が専門であるため、「日本中世の政治・経済について考える」をメインテーマとしています。とはいえ、当ゼミは、中世に限らず、広く、前近代日本史・日本経済史で卒業論文を製作する予定の方を受講対象としてあります。</p> <p>(ゼミの進め方) 前近代日本史・経済史での卒業論文制作の準備のため、春学期においては、日本史の研究書・研究論文に慣れていただきます。またそれに関する個人報告をしていただきます。秋学期においては、当時の公文書や私文書で用いられた和風漢文体の史料（くずし字ではなく、活字史料を用います）に慣れていただき、それを用いた個人報告をしていただきます。</p> <p>(その他) 春学期に1度、下関市立歴史博物館での学外授業を行います。</p>					
到達目標	<p>1.歴史を鑑みつつ現代の問題を考察することができるようになる。 2専門性の高い論文や研究書を理解し、まとめることができるようになる。 3.自分の見解を適切に表現し、他者の質問に適切に回答できるようになる。 4.前近代の日本の公文書や私文書で用いられた和風漢文体史料に触れ、知的好奇心や教養を高めることができる。 5.大学で専門性の高い学問をしたという自信を持つことができる。</p>					
評価の方法と基準	評価方法	割合(%)	評価基準・その他備考			
	平常点	50	ゼミへの参加姿勢。			
	小テスト					
	レポート	25	期末レポートの出来栄え。			
	定期試験					
	その他	25	個人報告の出来栄え。			
事前・事後学習	日本史の通史については各自で復習しておいてください。					
事前受講を推奨する科目	日本史概説					
	日本経済史					
教科書	書籍名		著者	出版社	出版年	
参考書	書籍名		著者	出版社	出版年	
備考	春学期に1度、下関市立歴史博物館での学外授業がありますので、その分の交通費と拝観料がかかります。					

授業の計画

1	ガイダンス	1年間のスケジュールの確認、受講者の自己紹介などを行う。
2	研究基礎学習	日本史研究を行うまでの基礎的な文献や、インターネットを用いた論文検索・史料検索について講義する。
3	図書館探訪	図書館に行き、研究で用いる文献や史料がどこにあるか確認する。
4	学外授業	下関市立歴史博物館で担当学芸員の解説を受けつつ特別展ないしは企画展を拝観する。
5	史料輪読	日本史史料の輪読（特に予習をせずに、参加者で史料の音読を行い、史料に慣れる訓練をする事）を行う。
6	史料輪読	日本史史料の輪読を行う。
7	史料輪読	日本史史料の輪読を行う。
8	史料輪読	日本史史料の輪読を行う。
9	史料輪読	日本史史料の輪読を行う。
10	個人報告	割り当てられた日本史論文についての報告を行う。
11	個人報告	割り当てられた日本史論文についての報告を行う。
12	個人報告	割り当てられた日本史論文についての報告を行う。
13	個人報告	割り当てられた日本史論文についての報告を行う。
14	個人報告	割り当てられた日本史論文についての報告を行う。
15	個人報告	割り当てられた日本史論文についての報告を行う。
16	秋学期のガイダンス	秋学期のスケジュールを確認し、各自で取り組むべき課題を共有する。
17	史料輪読	日本史史料の輪読（特に予習をせずに、参加者で史料の音読を行い、史料に慣れる訓練をする事）を行う。
18	史料輪読	日本史史料の輪読を行う。
19	史料輪読	日本史史料の輪読を行う。
20	史料輪読	日本史史料の輪読を行う。
21	史料輪読	日本史史料の輪読を行う。
22	個人報告	各自で選んだ日本史史料についての報告を行う。
23	個人報告	各自で選んだ日本史史料についての報告を行う。
24	個人報告	各自で選んだ日本史史料についての報告を行う。
25	個人報告	各自で選んだ日本史史料についての報告を行う。
26	個人報告	各自で選んだ日本史史料についての報告を行う。
27	個人報告	各自で選んだ日本史史料についての報告を行う。
28	個人報告	各自で選んだ日本史史料についての報告を行う。
29	個人報告	各自で選んだ日本史史料についての報告を行う。
30	個人報告	各自で選んだ日本史史料についての報告を行う。

授業科目名	専門演習（水谷）	担当教員名	水谷 利亮			
科目ナンバリング		開講学期	通年	単位数	4単位	配当年次

授業概要	<p>【人口減少社会における地域づくりと地域政策について考えよう！】</p> <p>東京一極集中と地方「田舎」での人口減少・地域衰退が現代日本の政策課題となっています。国の「上からの地方創生」と異なり、現場では自治体がNPO・民間団体、コミュニティなどと協働して内発的な地域づくりに取り組む事例も多くあります。そのような地域のあり方を、学生が実証的・理論的に学習・考察して、現代社会の問題を批判的に考えるための知識と視点を得ることを目的とします。</p> <p>地域づくり・地域政策に関するテキスト2冊などをしっかり輪読します。 参加者が興味あるテーマ別に班グループで研究し、学内の他セミなどとの合同ゼミでその報告発表を行います。 県内長門市俵山地区的地域づくりNPOなどの取り組みに注目し、土日などに2回くらい自主的・自由参加の活動としてフィールドワークに行き、現場をみて学ぶ機会を提供します。</p> <p>参加学生が活発に議論・コミュニケーションすることにより、主体的に考える力と論理的発表能力、調整能力を磨くよう工夫します。</p>					
到達目標	<p>テキストの輪読・議論をして主体的に考える力とコミュニケーション能力を磨き、地域づくり・地方自治の基本的理解を深める。</p> <p>グループで学習し、多様な意見をまとめて報告をする力と、議論を整理・調整する力をつけてコミュニケーション能力を高める。</p> <p>県内の地域づくり事例を参照・分析して、地域の多様な現状と課題、可能性を考える。</p> <p>輪読と課題報告とレポート提出などにより卒論のテーマを見つける。</p>					
評価の方法と基準	評価方法	割合(%)	評価基準・その他備考			
	平常点	60	授業・議論への参加度			
	小テスト					
	レポート	10	卒論に向けたまとめの個人レポート			
	定期試験					
	その他	30	班別研究テーマ報告の内容			
事前・事後学習	<p>授業でのテキスト輪読のために事前に報告準備や該当部分の予習をして、当日積極的に議論に参加し、事後に反省・再考すること。班別研究テーマ報告のために事前に班ごとに資料を探して読んで議論して考えて、その内容をまとめたレジュメやパワーポイントなどを事前に作成し、報告し、事後に振り返ること。</p>					
事前受講を推奨する科目	地方自治論（3年次受講推奨）					
	行政学（3年次受講推奨）					
教科書	書籍名		著者	出版社	出版年	
	『きみのまちに未来はあるか？』		除本 理史、佐無田光	岩波ジュニア新書		2020
	『関係人口の時代』		田中輝美	中公新書		2025
参考書	書籍名		著者	出版社	出版年	
	『新しい地域をつくる：持続的農村発展論』		小田切徳美編	岩波書店		2022
	『にぎやかな過疎をつくる：農村再生の政策構想』		小田切徳美	農山漁村文化協会（農文協）		2024
	『下関市立大学 学びのハンドブック』					
備考	<p>授業形態：対面授業（場合によりZoomで同時双向型）</p> <p>教科書以外に地域づくり・地域政策に関する複数の学術論文を輪読・議論</p> <p>コンテンツ配信：レジュメ等はgoogle classroom (gc) に時間前掲示</p> <p>授業時間外の学習にも積極的に取り組むこと</p> <p>教科書は各自、生協などで購入</p> <p>gcには、ecoメールに招待を送るので参加手続きをして入る。</p> <p>必要に応じ授業内容を周知して変更する場合あり。</p>					

授業の計画

1	オリエンテーション	演習の概要説明、自己紹介と「他者」紹介
2	参加者の問題関心の報告	参加者が問題関心をもっている地域づくり・地域政策に関するテーマ・新聞記事などの報告と議論
3	『きみのまちに未来はあるか?』輪読	序章 私たちは「地域」とどう向きあうのか
4	『きみのまちに未来はあるか?』輪読	第1章 暮らしの「根っこ」を見つめなおす
5	『きみのまちに未来はあるか?』輪読	第2章 ふるさと・地域を再生していこう
6	『きみのまちに未来はあるか?』輪読	第3章 「根っこ」を活かしてまちの文化をつくろう
7	『きみのまちに未来はあるか?』輪読	第4章 過疎からの最先端
8	『きみのまちに未来はあるか?』輪読	第5章 「根っこ」から地域をつくる 終章 未来へのヒントを地域のなかに探る
9	『関係人口の時代』輪読	序章 住民でも観光客でもなく - 地域に关心を持つ 第1章 都市の悩み、地方の課題 - つながりから政策へ
10	『関係人口の時代』輪読	第2章 多様なつながり方 - ライフステージに合わせて
11	『関係人口の時代』輪読	第3章 いかに地域と関わるか - 好奇心をきっかけに
12	『関係人口の時代』輪読	第4章 どうやって地域で受け入れるか - 長期的視点に立つ
13	『関係人口の時代』輪読	第5章 これからの地域とライフスタイル - 変わる常識 終章 希望ある人口減少社会をどう描くか
14	その他関連論文の輪読	その他、地域づくり・地域政策に関する学術論文2本ぐらい
15	春学期のまとめ	春学期の全体のまとめ
16	各自の関心テーマに関する報告	年末のゼミ間交流会などにむけて個人の関心テーマについて報告
17	各自の関心テーマに関するグループ分け	各自の関心テーマをもとに3つぐらいの班に分かれてグループ学習するための班分けを議論・決定
18	各班ごとのグループ学習と全体交流	各自の関心テーマをもとに3つぐらいの班に分かれてグループ学習して、関連論文などをゼミで輪読・交流
19	各班ごとのグループ学習と全体交流	各自の関心テーマをもとに3つぐらいの班に分かれてグループ学習して、関連論文などをゼミで輪読・交流
20	各班ごとのグループ学習と全体交流	各自の関心テーマをもとに3つぐらいの班に分かれてグループ学習して、関連論文などをゼミで輪読・交流
21	各班ごとのグループ学習と全体交流	各自の関心テーマをもとに3つぐらいの班に分かれてグループ学習して、関連論文などをゼミで輪読・交流
22	各班ごとのグループ学習と全体交流	各自の関心テーマをもとに3つぐらいの班に分かれてグループ学習して、関連論文などをゼミで輪読・交流
23	各班ごとのグループ学習と全体交流	各自の関心テーマをもとに3つぐらいの班に分かれてグループ学習して、関連論文などをゼミで輪読・交流
24	各班ごとのグループ学習と全体交流	各自の関心テーマをもとに3つぐらいの班に分かれてグループ学習して、関連論文などをゼミで輪読・交流
25	各班のテーマに関する研究報告	3つぐらいの班に分かれてグループ学習した成果・研究内容の報告
26	各班のテーマに関する研究報告	3つぐらいの班に分かれてグループ学習した成果・研究内容の報告
27	個人の卒業論文研究テーマの報告	参加者の今後における卒業論文に関する研究テーマのレポート報告
28	個人の卒業論文研究テーマの報告	参加者の今後における卒業論文に関する研究テーマのレポート報告
29	卒業論文の報告を聞く	4年生(専門演習)の卒業論文の報告会への参加と議論、交流
30	全体のまとめ	1年間の総括

授業科目名	専門演習（村田）	担当教員名	村田 和博			
科目ナンバリング		開講学期	通年	単位数	4単位	配当年次 3年生

授業概要	<p>企業組織においてだけでなく、大学組織においてもリーダーや組織人としての役割を求められることがある。本演習は経営管理論を中心に、現在所属する組織、また将来所属するであろう組織で活かせる知識を学ぶ。2冊のテキストを参加者全員で討議することで、経営戦略（経営戦略の理論、経営戦略の事例など）とモチベーション（モチベーションの理論、実践家のモチベーションなど）の基礎について学ぶ。また、テキストとは別に、企業を調べ報告することで企業理解を深める機会を設ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ 授業の進め方は、担当者による企業分析の報告、担当者によるテキスト担当部分の報告、全体での討議、まとめ、の順である。 ◦ さらに、春学期と秋学期の各学期に、ゼミ内のプレゼンテーション大会を実施する。 					
到達目標	<p>経営戦略とモチベーションについて理解する。 著書を読み、理解し、討議する力を身につける。 自ら調べたことをわかりやすく説明する力を身につける。</p>					
評価の方法と基準	評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考			
	平常点	60	報告内容、課題の内容と提出状況、学習に対する意欲などから総合的に評価する			
	小テスト					
	レポート	40	学期末のレポートを提出			
	定期試験					
	その他					
事前・事後学習	<p>事前学習としてはテキストの該当する章を読んでおくこと。また、報告の際には事前に報告の準備をすること。事後学習としては期末レポートが書けるように各回の演習内容を整理しておくこと。</p>					
事前受講を推奨する科目	経営管理論					
	経営管理論					
教科書	書籍名	著者	出版社	出版年		
	『経営戦略の思考法』	沼上幹	日本経済新聞出版社	2009年		
	『働くみんなのモティベーション論』	金井壽宏	日本経済新聞出版社	2016年		
参考書	書籍名	著者	出版社	出版年		
備考	<p>テキストの報告はグループでの報告を予定している。 在庫の状況により、テキストが変わる可能性がある。</p>					

授業の計画

1	ガイダンス	3年生と4年生の合同ゼミ、自己紹介、グループ学習
2	企業分析	企業分析の方法と報告の仕方
3	モチベーション（1）	報告担当者による報告とその報告に関する討議、第1章「モチベーションに持論を持つ」
4	モチベーション（2）	報告担当者による報告とその報告に関する討議、第2章「持論がもたらすパワー」
5	モチベーション（3）	報告担当者による報告とその報告に関する討議、第3章「マクレガー・ルネサンス」
6	モチベーション（4）	報告担当者による報告とその報告に関する討議、第4章「外発的モティベーションと内発的モティベーション」
7	モチベーション（5）	報告担当者による報告とその報告に関する討議、第5章1「期待理論でわかること、わからないこと」
8	モチベーション（6）	報告担当者による報告とその報告に関する討議、第5章2「達成動機の高いひとたち」
9	モチベーション（7）	報告担当者による報告とその報告に関する討議、第6章「親和動機」
10	モチベーション（8）	報告担当者による報告とその報告に関する討議、第7章「目標設定」
11	モチベーション（9）	報告担当者による報告とその報告に関する討議、第8章「自己実現」
12	モチベーション（10）	報告担当者による報告とその報告に関する討議、第9章「実践家の持論」
13	プレゼンテーション（1）	モチベーションに関する課題をグループで協議する。
14	プレゼンテーション（2）	モチベーションに関する課題をグループで協議する。
15	プレゼンテーション（3）	モチベーションに関する課題の成果を報告する。
16	経営戦略論（1）	報告担当者による報告とその報告に関する討議、内容：戦略計画学派
17	経営戦略論（2）	報告担当者による報告とその報告に関する討議、内容：創発戦略学派
18	経営戦略論（3）	報告担当者による報告とその報告に関する討議、内容：ポジショニング・ビュー
19	経営戦略論（4）	報告担当者による報告とその報告に関する討議、内容：リソース・ベースト・ビュー
20	経営戦略論（5）	報告担当者による報告とその報告に関する討議、内容：ゲーム論的アプローチ
21	経営戦略論（6）	報告担当者による報告とその報告に関する討議、内容：顧客ダイナミクス
22	経営戦略論（7）	報告担当者による報告とその報告に関する討議、内容：差別化戦略の組織的基礎
23	経営戦略論（8）	報告担当者による報告とその報告に関する討議、内容：競争を活用する戦略
24	経営戦略論（9）	報告担当者による報告とその報告に関する討議、内容：先手の連鎖シナリオ
25	プレゼンテーション（4）	経営戦略論に関する課題をグループで協議する
26	プレゼンテーション（5）	経営戦略論に関する課題をグループで協議する
27	プレゼンテーション（6）	経営戦略論に関する課題の成果を報告する
28	卒論報告会（1）	4年生による卒論報告を聴講する
29	卒論報告会（2）	4年生による卒論報告を聴講する
30	卒論報告会（3）	4年生による卒論報告を聴講する

授業科目名	専門演習（柳）	担当教員名	柳 純
科目ナンバリング		開講学期	通年
		単位数	4単位
		配当年次	3年生

授業概要	本演習では、流通・マーケティングに関してさまざまな視点から分析する能力を身につけることができるよう、前半部分で決められた共通テキストの輪読を行い、後半部分ではテーマにしたがって問題解決をグループごとで行います。前半のテキスト輪読は予め報告者を決めておき、報告者に対して各自全員が質問者となりディスカッションを実践していきます。後半部分はグループに分かれて出題テーマについて調べ、プレゼンテーション形式でグループ報告を行います。その際には各自の関心がある新聞記事、Web上のデータ等を用いて活発な議論を引き出すことで成果をまとめていきます。 なお、各自の探究したい分野において当初よりテーマ設定をすることで、4年次の専門演習における卒業論文の執筆につなげていきます。また、各自の情報収集力や記述能力を養う意味で、レポートの提出も課していきます。			
到達目標	課題や問題を自ら発見・探究することができるようになる。 レポート・レジュメ作成、論文執筆に関する力を向上させることができる。 プレゼンテーションを通して表現能力を習得することができる。			
評価の方法と基準	評価方法	割合(%)	評価基準・その他備考	
	平常点	30	演習の参加態度で評価します	
	小テスト			
	レポート	70	提出物やレポート内容で評価します	
	定期試験			
	その他			
事前・事後学習	事前学習として、テキストを熟読の上、レジュメ作成および報告準備を行うこと。また、メンバーも個々人で当該箇所の内容を把握し、質問の準備を行うこと。 事後学習は、報告グループの報告内容の確認と、専門用語や疑問に感じた部分を各自で調べ、整理しておくこと。			
事前受講を推奨する科目	商学総論		マーケティング論	
	マーケティング論		流通論	
教科書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『マーケティング』	井上崇通・片山富弘 ・柳純編	五絃舎	2024年
参考書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『日本企業のグローバル・マーケティング』	大石芳裕編	白桃書房	2009年
	『1からのリテール・マネジメント』	清水信年・坂田隆文 編	中央経済社	2012年
	『下関市立大学 学びのハンドブック』			
備考	(1) 授業形態：対面授業（遠隔授業の際は同時双方向型） (2) 授業実施手段：遠隔の場合はGoogle Meetによる演習形式			

授業の計画

1	春学期ガイダンス	専門演習前半の概要、成績評価・方法などの説明をする。
2	テーマ設定	各自の問題意識の確認とテーマ設定
3	報告（1）	テキスト報告およびディスカッション
4	報告（2）	テキスト報告およびディスカッション、卒論テーマの選択
5	報告（3）	テキスト報告およびディスカッション、資料収集の方法と脚注
6	報告（4）	テキスト報告およびディスカッション、論文の導入部分
7	報告（5）	テキスト報告およびディスカッション
8	テーマ報告・指導（1）	各自のテーマ報告および推敲
9	報告（6）	テキスト報告およびディスカッション
10	報告（7）	テキスト報告およびディスカッション、卒論概要の把握
11	報告（8）	テキスト報告およびディスカッション
12	報告（9）	テキスト報告およびディスカッション
13	報告（10）	テキスト報告およびディスカッション
14	テーマ報告・指導（2）	各自のテーマ報告および推敲
15	春学期の総括	春学期のまとめを行う。
16	秋学期ガイダンス	専門演習後半の概要、成績評価・方法などの説明をする。
17	テーマの確認	各自の問題意識の再確認と取り組み状況の報告
18	卒論中間報告会（1）	卒論中間報告会
19	卒論中間報告会（2）	卒論中間報告会
20	報告（11）	グループ報告およびディスカッション（課題研究）
21	報告（12）	グループ報告およびディスカッション（課題研究）
22	報告（13）	グループ報告およびディスカッション（課題研究）
23	テーマ報告・指導（3）	グループ報告およびディスカッション（課題研究）
24	報告（14）	グループ報告およびディスカッション（自由論題研究）
25	報告（15）	グループ報告およびディスカッション（自由論題研究）
26	報告（16）	グループ報告およびディスカッション（自由論題研究）
27	報告（17）	グループ報告およびディスカッション（自由論題研究）
28	報告会の説明と準備	卒論「はじめに」の報告会の説明とその準備
29	テーマ報告・指導（4）	各自のテーマ報告および推敲（卒論導入部分の報告会）
30	テーマ報告・指導（5）および全体の総括	各自のテーマ報告および推敲（卒論導入部分の報告会） 秋学期および演習全体のまとめとレポート提出の説明をする。

授業科目名	専門演習（横山）	担当教員名	横山 寛和			
科目ナンバリング		開講学期	通年	単位数	4単位	配当年次 3年生

授業概要	<p>1990年代以降、日本社会は少子高齢化・人口減少、長期雇用の動搖と所得格差の拡大、それまでの雇用慣行に最適化された社会保障の動搖など、前提条件が変化する中で求められる政策も変化している。それらを理解し、適切な処方箋を示すためには、現在の仕組みを理解するだけではなく、実態や社会経済への影響を、関連する資料から読み取る必要がある。そのためには、有用な理論を理解し、資料から情報を引き出す手段を習得する必要がある。</p> <p>そこで本演習では、財政政策およびそれらを取り巻く社会経済環境の変化に着目し、様々な資料を用いて分析し、適切に評価するための理論的、歴史的視座を身に着けることを主な目的とする。前期では指定図書の輪読を通じて土台を作る。後期では関連する文献を精読し、そのプロセスで卒業論文につながる研究テーマを選定する。それらを通じて自分の考えを正確に伝えるプレゼンテーション能力とディスカッション能力も鍛える。</p>						
到達目標	<p>データを使って現象を分析するための手段およびその考え方を身に着ける。 文献の輪読を通じて社会経済に関する構造変化を理解するとともに、研究の基本的な方法論を学ぶ。 によって習得した知識・手段を活用してレポート・論文を作成する。 から のプロセスにおけるディスカッションを通じてコミュニケーション能力を高める。</p>						
評価の方法と基準	評価方法	割合(%)	評価基準・その他備考				
	平常点	60	自身の報告、およびディスカッションに対する姿勢を評価する。				
	小テスト						
	レポート	40	期末レポートを評価する。				
	定期試験						
	その他						
事前・事後学習	<p>毎回担当者はテキストの該当箇所を発表してください。それ以外の人は事前に通読し 発表者に対して質問してください。また、近見・堀田・江澤(2016)などで保険理論を学ぶことは社会保険への解像度を高めます。さらに、『マンキュー経済学 第5版 I マクロ編』、『マンキュー経済学 第5版II ミクロ編』などでマクロ・ミクロ経済学の基礎を習得することは社会保険への理解の助けとなります。</p>						
事前受講を推奨する科目	経済政策I・II						
	社会保障論						
教科書	書籍名	著者	出版社	出版年			
	『21世紀の財政政策 低金利・高債務下の正しい経済戦略』	オリヴィエ・ブランシャール、ダニ・ロ	日本経済新聞出版	2023			
	『福祉の経済学 - 21世紀の年金・医療・失業・介護』	ニコラス・バー著、菅沼隆監訳	光生館	2007			
	『データ分析をマスターする12のレッスン〔新版〕』	畠農銳矢、水落正明	有斐閣	2022			
参考書	書籍名	著者	出版社	出版年			
	『厚生労働白書 各年度版』	厚生労働省	日経印刷	各年度			
	『財政学 制度と組織を学ぶ』	佐々木伯朗	有斐閣	2019			
	『経済論文の書き方』	経済セミナー編集部編	日本評論社	2022			
備考	卒論に向けたテーマは社会保険に限らず、関心があるものを選択してください。						

授業の計画

1	ガイダンス	演習の概要と演習の進め方
2	輪読 & 演習	担当章の報告
3	輪読 & 演習	担当章の報告
4	輪読 & 演習	担当章の報告
5	輪読 & 演習	担当章の報告
6	輪読 & 演習	担当章の報告
7	輪読 & 演習	担当章の報告
8	輪読 & 演習	担当章の報告 , 演習
9	輪読 & 演習	担当章の報告 , 演習
10	輪読	担当章の報告 , 演習
11	輪読	担当章の報告 , 演習
12	輪読	担当章の報告 , 演習
13	輪読	担当章の報告 , 演習
14	輪読	担当章の報告 , 演習
15	まとめ	春学期の総括
16	ガイダンス	秋学期の進め方
17	輪読 & 演習	担当章の報告
18	輪読 & 演習	担当章の報告
19	輪読 & 演習	担当章の報告
20	輪読 & 演習	担当章の報告
21	輪読 & 演習	担当章の報告
22	輪読 & 演習	担当章の報告
23	輪読 & 演習	担当章の報告
24	輪読 & 演習	担当章の報告
25	輪読 & 演習	担当章の報告
26	輪読 & 演習	担当章の報告
27	輪読 & 演習	担当章の報告
28	輪読 & 演習	担当章の報告
29	輪読 & 演習	担当章の報告
30	まとめ	秋学期の総括

授業科目名	専門演習（劉）	担当教員名	劉 澤文
科目ナンバリング		開講学期	通年
		単位数	4単位
		配当年次	3年生

授業概要	<p>本演習では、とりわけアジアの途上国における経済開発を中心に学ぶ。21世紀に入り、アジアのプレゼンスは世界経済の中で急速に高まっている。アジア域内ではモノ、カネ、ヒト、情報の流動性が高まり、越境する生産・流通ネットワークの構築により経済統合が進んでいる。かつて途上国であった韓国やシンガポールなども先進国入りを果たし、大きな成長を遂げてきた。これらの国々の経済開発プロセスを理解し、その上で異なる視点から日本社会や日本企業を捉えることは、新たな洞察を得るうえで有益である。</p> <p>本演習では、指導教員が指定する論文資料を輪読したうえで、ゼミメンバーを中心としたグループディスカッションを行い、その成果を整理した上で関連テーマに関するプレゼンテーションを実施する。これらの学習活動を通じて、アジアをはじめとする各国経済への理解を深めるとともに、グローバルな視点から事業や企業活動を考察する能力を養成することを目的とする。</p>			
到達目標	<p>テキスト、論文を読んで、要約を作成できる。 履修者の関心がある途上国の社会・経済開発に関する先行研究を調べる。 履修者が各自の卒論テーマを説明できる。</p>			
評価の方法と基準	評価方法	割合(%)	評価基準・その他備考	
	平常点	60	授業の参与度、完成度	
	小テスト			
	レポート			
	定期試験			
	その他	40	グループ発表、卒論テーマの発表	
事前・事後学習	<p>グループワークに積極的に取り組む。 割り当てられた課題を準備する。 質疑や関心がある課題を調べる。</p>			
事前受講を推奨する科目	開発経済学			
	開発途上国論			
教科書	書籍名	著者	出版社	出版年
参考書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『グローバル化と途上国的小農』	重富真一：編	アジア経済研究所	2007
	『発展途上国の国家と経済』	東茂樹：編	アジア経済研究所	2000
備考	学生のパフォーマンスに応じて、指定する論文が変更される場合がある。			

授業の計画

1	ガイダンス	演習の概要について説明します。 自己紹介
2	論文の輪読、グループディスカッション	エチオピアのコーヒー生産者とフェアトレードについて学びます。
3	プレゼンテーション	各グループのプレゼンテーション
4	論文の輪読、グループディスカッション	ペルーにおける輸出アスパラガス栽培について学びます。
5	プレゼンテーション	各グループのプレゼンテーション
6	論文の輪読、グループディスカッション	ベトナムの大規模私営農場について学びます。
7	プレゼンテーション	各グループのプレゼンテーション
8	論文の輪読、グループディスカッション	中国のリンゴ輸出について学びます。
9	プレゼンテーション	各グループのプレゼンテーション
10	論文の輪読、グループディスカッション	マラウイにおけるタバコ生産について学びます。
11	プレゼンテーション	各グループのプレゼンテーション
12	論文の輪読、グループディスカッション	ミャンマーにおけるエビ輸出について学びます。
13	各グループのプレゼンテーション	各グループのプレゼンテーション
14	論文の輪読、グループディスカッション	タイにおけるアグリビジネスによる契約養鶏について学びます。
15	前期のまとめ	各グループのプレゼンテーション 全体の評価、今後の課題
16	後期オリエンテーション	後期内容説明のほか、発表スケジュールを設定します。 開発途上国経済における政府と制度の役割について学びます。
17	論文の輪読、グループディスカッション	韓国の重化学工業政策と財閥について学びます。
18	プレゼンテーション	各グループのプレゼンテーション
19	論文の輪読、グループディスカッション	台湾の半導体産業における国家と社会について学びます。
20	プレゼンテーション	各グループのプレゼンテーション
21	論文の輪読、グループディスカッション	タイの経済開発と金融制度について学びます。
22	プレゼンテーション	各グループのプレゼンテーション
23	論文の輪読、グループディスカッション	マハティールの開発主義と政策実施メカニズムについて学びます。
24	プレゼンテーション	各グループのプレゼンテーション
25	論文の輪読、グループディスカッション	メキシコの金融青銅に見る開発と国家について学びます。
26	プレゼンテーション	各グループのプレゼンテーション
27	論文の輪読、グループディスカッション	ブラジルの経済自由化と自動車産業政策について学びます。
28	プレゼンテーション	各グループのプレゼンテーション
29	論文の輪読、グループディスカッション	フィリピンにおけるトウモロコシ生産の展開について学びます。
30	後期のまとめ	各グループのプレゼンテーション 全体の評価、今後の課題

授業科目名	専門演習（渡邊）	担当教員名	渡邊 尚孝			
科目ナンバリング		開講学期	通年	単位数	4単位	配当年次 3年生

授業概要	学生は人種・民族・社会経済的階層・ジェンダー・性的指向性・障害の有無など、多様な文化集団の共存共生を目指すヒューマンサービス及び地域づくりについて検討します。文化や価値観の多様性と地域の現状を理解し、直接的支援に限らない包括的な実践情報や文献等を基に対話を繰り返しながら、多様な生き方や様々なコミュニティアプローチを学びます。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 現実の課題テーマを自分自身の経験から見つけ出す。 多角的視点をもって関連情報収集を行い、文献を批判的に読み、まとめ、説明できる。 グループディスカッションやプレゼンテーションを行い、情報発信能力を高める。 以上を通して自ら問題を設定し、レポートを作成できる。 					
評価の方法と基準	評価方法	割合(%)	評価基準・その他備考			
	平常点	50%	平常点は質問・発言内容及び報連相の実践を指す。			
	小テスト					
	レポート	30%				
	定期試験					
	その他	20%	文献紹介、発表及びディスカッション内容を指す。			
事前・事後学習	<ul style="list-style-type: none"> 日頃から人や文化に関わる地域課題に关心を持ち、自分自身の学習課題を見つける姿勢を持つこと。 適確な情報収集を心がけ、課題期限を守ること。 					
事前受講を推奨する科目						
教科書	書籍名	著者	出版社	出版年		
	『情報発信者になる』	上野千鶴子	ちくま新書	2018		
参考書	書籍名	著者	出版社	出版年		
	『下関市立大学 学びのハンドブック』					
	『新版 日本語の作文技術』	本多勝一	朝日新聞出版	2015年		
	『最新版 論文の教室 レポートから卒論まで』	戸田山和久	NHK BOOKS1272	2022年		
備考						

授業の計画

1	はじめに	自己紹介や評価方法詳細、スケジュール確認等を含めたガイダンス。
2	テキスト輪読(1)	チームごとの報告とディスカッション。
3	テキスト輪読(2)	チームごとの報告とディスカッション。
4	テキスト輪読(3)	チームごとの報告とディスカッション。
5	テーマ選定と目的設定(1)	テーマ選定と研究目的の設定を行う。
6	テーマ選定と目的設定(2)	情報収集方法と視点について解説。
7	文献検索	研究目的に沿った文献調査を行う。
8	文献抄読と報告(1)	先行研究を要約する。
9	文献抄読と報告(2)	先行研究を批判的に検討する。
10	グループ報告(1)	個別テーマに関する先行研究の整理・報告とディスカッション。
11	グループ報告(2)	個別テーマに関する先行研究の整理・報告とディスカッション。
12	現地調査あるいは外部講師(1)	必要に応じフィールドワークによる調査を行う。
13	現地調査あるいは外部講師(2)	必要に応じフィールドワークによる調査を行う。
14	現地調査あるいは外部講師(3)	必要に応じフィールドワークによる調査を行う。
15	春学期のまとめ	春学期の学びを総括し、夏休みの作業課題を確認する。
16	秋学期ガイダンス	夏休みの作業課題を確認し、研究計画書を作成する。
17	文献輪読(4)	チームごとの報告とディスカッション。
18	文献輪読(5)	チームごとの報告とディスカッション。
19	文献輪読(6)	チームごとの報告とディスカッション。
20	文献輪読(7)	チームごとの報告とディスカッション。
21	文献輪読(8)	チームごとの報告とディスカッション。
22	文献輪読(9)	チームごとの報告とディスカッション。
23	グループ報告(3)	個別研究計画書の整理・報告とディスカッション。
24	グループ報告(4)	個別研究計画書の整理・報告とディスカッション。
25	グループ報告(5)	個別研究計画書の整理・報告とディスカッション。
26	個別報告(1)	個別研究計画書をまとめて報告し、ディスカッションを行う。
27	個別報告(1)	個別研究計画書をまとめて報告し、ディスカッションを行う。
28	個別報告(1)	個別研究計画書をまとめて報告し、ディスカッションを行う。
29	個別報告(1)	個別研究計画書をまとめて報告し、ディスカッションを行う。
30	後期総括	本演習活動を通して学んだことを振り返り、今後の卒業研究のあり方について確認する。

授業科目名	専門演習（岡崎・岸田）	担当教員名	岸田 匠／岡崎 慎二			
科目ナンバリング		開講学期	通年	単位数	4単位	配当年次
授業概要		本専門演習では地域ビジネス、アグリフードビジネス分野に特に焦点を当てて実践的な経営について学びます。 基礎的な分析理論を学ぶと共に実際に企業分析を行い、企業に提案できる力を身に着けることにより、地域での課題解決能力を身に着けた次世代リーダーを育成することを一つの目的とします。また、理論だけでなく現代特に重要なアントレプレナーシップの定着にも着目し、「自ら問い合わせ立て、行動できる行動力」を持つ人材へと育てたいと考えています。 春学期と秋学期のまとめとして研究発表を合宿形式で行うことを予定しています。				
到達目標		<ul style="list-style-type: none"> ・経営の理論と実践を身につける。 ・地域ビジネスやアグリフードビジネスにおける現状と課題を把握し、自ら動ける行動力を身につける。 ・基本的な文献調査等の先行研究調査ができるようになる ・グループでの調査・ディスカッション・プレゼンテーションができるようになる。 ・自らを見つめ、社会人としての自らの軸を立てる。 				
評価の方法と基準	評価方法	割合(%)	評価基準・その他備考			
	平常点	40	出席状況、議論等への参加状況等			
	小テスト					
	レポート					
	定期試験					
	その他	60	中間報告の参加、レポートの質			
事前・事後学習	個人・グループで、各課題毎に指示する内容に取り組む。 ケース企業のフィールド調査および分析のためのグループワーク					
事前受講を推奨する科目	経営学入門		マーケティング論			
	経営管理論					
教科書	書籍名		著者	出版社	出版年	
	『教科書は指定しない』					
参考書	書籍名		著者	出版社	出版年	
	『競争の戦略』		マイケル・E・ポータ 一	ダイヤモンド社		
	『コトラーのマーケティング・マネジメント』		フィリップ・コトラ 一	丸善		
	『マーケティング戦略』		沼上 幹	有斐閣アルマ		
備考	この授業は、民間企業等での実務経験がある教員が行う授業です。 人数・進捗・受講生の希望・その他の要因等により、内容を変更することがある。					

授業の計画

		授業の計画
1	イントロダクション	ゼミの進め方・スケジュール、自己紹介
2	イントロダクション	プレゼンテーションとは？（学生の自己紹介プレゼン）プレゼンの練習を自分史をまとめて行う。
3	企業経営理論の演習	戦略とは何か：SWOT分析、ポジショニングアプローチと RBV
4	企業経営理論の演習	競争戦略：競争優位、ポジション別の戦略
5	企業経営理論の演習	業界構造分析：ポーターの5 Forces、ビジネスモデルと顧客価値創造
6	企業経営理論の演習	企業分析演習
7	企業経営理論の演習	企業分析演習
8	企業分析	ケース企業の経営幹部の講演および質疑応答
9	企業分析	ケース企業を取り巻く環境変化を整理する
10	企業分析	ケース企業の業界構造を分析する
11	企業分析	ケース企業の競争優位性を分析する
12	企業分析	ケース企業のマーケティング分析
13	企業分析	ケース企業の財務分析を行う
14	企業分析	ケース企業分析の課題抽出・課題の整理を行う
15	前半のまとめ	中間発表：ケース企業分析の発表
16	後半のオリエンテーション	ケース企業への提案に向けてのオリエンテーション（進め方、グループ分け、テーマ設定等）
17	研究基礎	リサーチデザインとは何か：問い合わせ方、リサーチクエスチョンの設定、研究のデザイン
18	研究基礎	リサーチのためのインプット：文献調査・データ収集の方法、論文・文献の読み方
19	研究基礎	リサーチのアウトプットの方法：データの可視化、レポートの作成、プレゼンの作成方法
20	研究基礎	アウトプットの演習：個人プレゼン発表とディスカッション
21	企業への提案の検討	フィールド調査の準備（課題の深堀と提案検討のためのフィールド調査の計画を行う）
22	企業への提案の検討	フィールド調査の実施
23	企業への提案の検討	フィールド調査の実施
24	企業への提案の検討	フィールド調査の実施
25	企業への提案の検討	企業提案の検討（課題解決のための提案を検討する）
26	企業への提案の検討	企業提案の検討（課題解決のための提案を検討する）
27	企業への提案の検討	企業提案のプレゼン資料の作成
28	企業への提案の検討	ケース企業への戦略提案の発表
29	卒論のテーマ検討	卒業論文で取り組むべき新たな研究課題の設定・討論
30	卒業研究の計画	卒業研究についての研究プロポーザルの発表を行う

授業科目名	専門演習（廣岡）	担当教員名	廣岡 崇史																					
科目ナンバリング		開講学期	通年	単位数	4単位	配当年次 3年生																		
授業概要	<p>本ゼミでは、「M&A・組織再編」を軸に、企業経営における重要なテーマ～戦略・組織・風土・人材～を横断的に学びます。</p> <p>講義で扱う内容は、いずれも“ビジネス現場”で起きているテーマです。 担当教員が約20年にわたり経営コンサルティング、人事制度改革、組織再編支援に携わってきた経験をもとにリアルな題材を中心に扱い、経営の現場に近い学習をすることが本ゼミの特徴です。</p>																							
到達目標	<p>1. 経営の基礎知識を実際の企業課題に応用できる能力の習得（1～3年生で学ぶ基礎領域を、“実務で使える知識”へと発展）</p> <p>2. M&A・組織再編の全体像と、その成功を左右する組織・人材マネジメントの概要を理解（組織・人事制度融合、PMIなどの実務テーマへの理解）</p> <p>3. ビジネスで必要な思考力・分析力・コミュニケーション力などを習得（就職活動やビジネスで直ぐ活かせる能力の習得）</p>																							
評価の方法と基準	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法</th> <th>割合(%)</th> <th>評価基準・その他備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平常点</td> <td>80</td> <td>参加度(20%)、講義での発言・討議内容・知識・スキルの習得度(60%)</td> </tr> <tr> <td>小テスト</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>20</td> <td>事前課題の実施状況</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> <td>ゼミの運営上、貢献があった場合に+として加点する場合があります</td> </tr> </tbody> </table>						評価方法	割合(%)	評価基準・その他備考	平常点	80	参加度(20%)、講義での発言・討議内容・知識・スキルの習得度(60%)	小テスト			レポート	20	事前課題の実施状況	定期試験			その他		ゼミの運営上、貢献があった場合に+として加点する場合があります
評価方法	割合(%)	評価基準・その他備考																						
平常点	80	参加度(20%)、講義での発言・討議内容・知識・スキルの習得度(60%)																						
小テスト																								
レポート	20	事前課題の実施状況																						
定期試験																								
その他		ゼミの運営上、貢献があった場合に+として加点する場合があります																						
事前・事後学習	事前課題の実施を予定しています（数回）。																							
事前受講を推奨する科目	経営管理論・ 人事労務管理論		経営組織論																					
教科書			書籍名	著者	出版社	出版年																		
参考書			書籍名	著者	出版社	出版年																		
備考	<p>『 講義の中で指定します。』</p> <p>1.興味がある学生は、担当教員が民間企業に対して行う経営コンサルティング業務（M&A・組織再編、組織・人材マネジメント、等）や、企業向けセミナー・研修を参加・体験することもできます。</p> <p>2.外部からの講師（企業担当者、経営コンサルタント、等）を招いて実際のビジネスの事例を紹介いただくこともあります。</p> <p>3.スケジュールや教材は、進捗状況などを考慮し変更される場合があります。</p>																							

授業の計画

授業の計画	
1 オリエンテーション	授業のゴール、進め方などの説明、自己紹介
2 企業経営の基礎(1)	企業経営の目的・戦略、会社組織(機能、役割)
3 企業経営の基礎(2)	組織・人材マネジメント概要
4 経営コンサルティング・スキル(1)	ビジネスに求められる能力とは? 経営コンサルタントとは?
5 経営コンサルティング・スキル(2)	演習 (論理的思考能力、論点思考、課題解決の方法)
6 経営コンサルティング・スキル(3)	演習 (成果物・レポートの作成)
7 経営コンサルティング・スキル(4)	演習 (討議、グループ・ディスカッション)
8 経営コンサルティング・スキル(5)	演習 (総合演習)
9 組織・人材マネジメント(1)	パーパス経営と人材マネジメントの重要性
10 外部講師による講演	企業担当者(人事部)を招聘し、具体的な事例を学ぶ *スケジュールが前後する場合もあり
11 組織・人材マネジメント(2)	人事制度改革 等級・報酬・評価制度
12 組織・人材マネジメント(3)	人事制度改革 事例紹介、ケーススタディ
13 組織・人材マネジメント(4)	日本企業のグローバル化に向けた取組み(ダイバーシティ&インクルージョン、人的資本開示) 、事例紹介
14 外部講師による講演	企業担当者(人事部 または人事コンサルタント)を招聘し、具体的な事例を学ぶ *スケジュールが前後する場合もあり
15 春学期のまとめ	春学期のまとめ
16 組織・人材マネジメント(5)	演習 組織の融合と衝突
17 組織・人材マネジメント(6)	組織風土・文化
18 組織・人材マネジメント(7)	組織・人材マネジメント演習
19 M&A・組織再編(1)	M&A・組織再編の概要(M&Aの目的、全体ステップ、等)
20 M&A・組織再編(2)	M&A・組織再編のスキーム(合併、分割、事業譲渡、等)、M&A戦略立案
21 M&A・組織再編(3)	Pre- M&A (デューデリジェンス、企業価値評価)
22 M&A・組織再編(4)	演習 (事例調査、等)
23 M&A・組織再編(5)	Post Merger Integration <PMI> 経営統合
24 M&A・組織再編(6)	Post Merger Integration <PMI> 事例紹介・ケーススタディ
25 外部講師による講演	コンサルタント(M&A、組織再編の専門家)を招聘し、具体的な事例を学ぶ
26 M&A・組織再編(7)	演習 (M&Aの企画立案: 買収先の調査、Long/Sort List、企業価値算定)
27 M&A・組織再編(8)	演習 (M&Aの企画立案: 買収先との交渉、PMI計画・実行)
28 卒論のテーマ設定	卒業論文で取り組むべき新たな研究課題の設定・討論
29 卒論のテーマ設定	卒業論文で取り組むべき新たな研究課題の設定・討論
30 全体のまとめ	全体のまとめ